長野工業高等専門学校	環境都市工学科	開講年度	令和06年度 (2024年度)

学科到達目標

本校では、教育理念、教育･運営方針等に沿って、下記の身につける学力・資質・能力（学習・教育目標）を定めています。
身につける学力・資質・能力（学習・教育目標）は、本科卒業時の目標とすべき人材像に照らして設定したものです。

(A)世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。
(A-1)社会科学および人文科学に興味を持ち、関連知識を理解し身につけられる。また、自分自身と他人との関わりや価値観の相違について、理解できる。
(A-2)健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べることができる。
(B)自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）(B-1)自然や社会の問題に関心を持ち、技術が果たしてきた役割を理解し論述できる。(B-2)環境や社会における課題を理解し論述できる。(C)機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。(C-1)数学、自然科学において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。(C-2)工学に必要な情報技術に関するリテラシーを身につけ、利用できる。(D)基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。(D-1)基盤となる工学分野において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。(D-2)基盤となる工学分野において、論理展開に必要な基礎問題を解くことができる。(D-3)基盤となる工学分野以外の工学分野の基礎的な知識を身につける。(E)科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。(E-1)科学、技術、工学に関する情報を収集し、その適否を判断してまとめることができる。(E-2)習得した知識や技能を課題に対して利用できる。(F)具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。(F-1)学習成果を文章、図等により表現できる。(F-2)基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。(G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。(G-1)自己の能力を把握し、その向上のために自主的に学習を遂行できる。(G-2)実務訓練等を通じて基盤となる工学分野に関連した業務の概要を理解できる。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
専門	必修	建築設計製図Ⅰ	0029	履修単位	1													2								西川 嘉雄	
専門	選択	英語プレゼンテーション基礎	0030	学修単位	2													2								ケント	
専門	必修	コンクリート構造学Ⅱ	0031	履修単位	1													2								大原 涼平	
専門	必修	鋼構造学	0032	学修単位	2															2						奥山 雄介	
専門	必修	計画数理学	0033	履修単位	2													2		2						柳澤 吉保	
専門	必修	情報処理	0034	履修単位	2													2		2						轟 直希	
専門	必修	実験実習Ⅲ	0035	履修単位	4													4		4						遠藤 典男,松下 英次,酒井 美月,轟 直希,大原 涼平	
専門	必修	設計製図Ⅱ	0036	履修単位	2													2		2						遠藤 典男	
専門	必修	構造力学Ⅲ	0037	学修単位	2													2								奥山 雄介	
専門	必修	水理学Ⅱ	0038	履修単位	2													2		2						酒井 美月	
専門	必修	土質工学Ⅱ	0039	履修単位	2													2		2						松下 英次	

専門	選択	実務訓練	0040	履修単位	1													集中講義								柳澤 吉保 ,遠藤 典男 ,古本 吉倫 ,西川 嘉雄 ,松下 英次 ,酒井 美月 ,浅野 憲哉 ,轟 直希 ,奥山 雄介 ,大原 涼平	
専門	選択	土木工学特論	0041	履修単位	1													集中講義								柳澤 吉保	
専門	必修	地理情報システム	0042	学修単位	2															2						松下 英次,轟 直希	
専門	必修	建設環境衛生学I	0043	履修単位	1															2						浅野 憲哉	
専門	必修	施工特論	0044	履修単位	1															2						古本 吉倫	
専門	選択	フィジカルコンピューティング	0045	学修単位	2															2						宮嵜 敬 ,堀内 泰輔	
専門	必修	ベクトル解析	0046	学修単位	2															2						佐久間 敏幸	
専門	選択	フーリエ解析	0047	学修単位	2													2								西信 洋和	
専門	選択	複素関数論	0048	学修単位	2															2						小原 大樹,平戸 良弘	
専門	必修	確率統計Ⅱ	0049	学修単位	2													2								濱口 直樹	
専門	必修	応用物理Ⅱ	0050	学修単位	2															2						奥村 紀浩	
専門	必修	建築法規	0045	履修単位	1																			2		西川 嘉雄	
専門	選択	建築設計製図Ⅱ	0046	履修単位	1																		2			西川 嘉雄	
専門	選択	建築環境	0047	学修単位	2																			2		西川 嘉雄	
専門	選択	建築史	0048	学修単位	2																		2			西川 嘉雄	
専門	選択	英語プレゼンテーション基礎	0049	学修単位	2																		2			ケント	
専門	必修	都市計画	0050	学修単位	2																		2			柳澤 吉保 ,轟 直希	
専門	必修	交通工学	0051	学修単位	2																		2			柳澤 吉保	
専門	必修	建設環境衛生学II	0052	履修単位	1																		2			浅野 憲哉	
専門	必修	実験実習Ⅳ	0053	履修単位	2																		4			古本 吉倫,松下 英次 ,浅野 憲哉 ,奥山 雄介 ,大原 涼平	
専門	必修	設計製図Ⅲ	0054	履修単位	2																		2	2		奥山 雄介	
専門	必修	耐震工学	0055	学修単位	2																		2			古本 吉倫	

専門	必修	卒業研究	0056	履修単位	8															8	8	柳澤 吉保,遠藤 典男,古本 吉倫,西川 嘉雄,松下 英次,浅野 憲哉,酒井 美月,轟 直希,奥山 雄介,大原 涼平	
専門	選択	環境アセスメント	0057	学修単位	2																2	酒井 美月,宮入 賢一郎	
専門	選択	環境防災学	0058	学修単位	2																2	古本 吉倫	
専門	選択	環境水工学	0059	学修単位	2																2	酒井 美月	
専門	選択	CAD	0060	学修単位	2														2			西川 嘉雄	
専門	選択	環境生態学	0061	学修単位	2																2	浅野 憲哉	
専門	選択	フーリエ解析	0062	学修単位	2														2			西信 洋和	
専門	選択	複素関数論	0063	学修単位	2																2	小原 大樹,平戸 良弘	

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築設計製図Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0029	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：大庭孝雄他「建築設計製図」実教出版，貴志雅樹監修「建築・設計・製図　住吉の長屋・屋久島の家・東大阪の家に学ぶ」学芸出版 参考書：日本建築学会編「第４版コンパクト建築設計資料集成」丸善		
担当教員	西川 嘉雄		

到達目標

建築設計製図に関する基本的事項を理解し，それに基づいて作図ができる．木造専用住宅に必要な機能を満たし，周囲の景観に配慮した設計ができる事．平面図や立面・断面図が作図と模型を作製し，設計主旨を相手に伝えるプレゼンテーション（図面と模型による）ができること．以上の内容を総合して評価し学習・教育目標の（D-1）および（D-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
建築設計製図の作図方法に関する事項	建築設計製図の作図方法を理解し，課題条件を満たした丁寧な図面・模型作成ができる．	建築設計製図の作図方法を理解し，課題条件を満たした図面・模型作成ができる．	建築設計製図の作図方法を理解しておらず，課題条件を満たした図面・模型作成ができない．
木造専用住宅の設計に関する事項	木造専用住宅に必要な機能・諸室を理解し，周囲の景観に配慮した設計ができる．	木造専用住宅に必要な機能・諸室を理解している．	木造専用住宅に必要な機能・諸室を理解していない．
設計主旨を相手に伝える事項	設計主旨を図面や模型を使って、相手に理解できるように説明できる．	設計主旨を図面や模型を使って説明できる．	設計主旨を図面や模型を使って説明できない．
課題を計画的に実施する項目	提出期限まで計画的に作図を進め，丁寧な設計製図課題を完了し成果品を提出できる．	丁寧さに欠ける部分はあるが設計製図課題を完了し，成果品を提出できる．	設計製図課題が完了せず，成果品の提出ができない．

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	木造住宅の設計を通して，建築設計の過程，製図の習得の他に自分のプランの特徴を相手に伝えることのできるプレゼンテーションの方法を習得する．本科目は，企業で建築物の計画および検討を担当していた教員が，その経験を生かしプランの計画・作図について実習形式で授業を行うものである．
授業の進め方・方法	授業は資料取集・エスキス・作図・模型作成を各自が主体になって行う．授業開始時に資料取集・エスキス・作図・模型作成の方法と注意点について解説をしたのち各自課題作成を行う．
注意点	＜成績評価＞図面と模型の完成度（100点満点）で評価する．ただし図面（木造住宅平面図，立面図，断面図，矩計図）の重みは70%で，模型の重みは30%とする．また，完成度の低いものは教員の判断により，再提出してもらう場合がある．以上の内容を総合して（D-1）及び（D-2）を評価し，合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする． ＜オフィスアワー＞原則として，毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，遠藤教員室（連絡担当）にて担当教員（西川嘉雄）への連絡方法を知らせ対応する．また，非常勤講師への質問は講義時間中に行う事． ＜先修科目・後修科目＞先修科目は建築計画，設計製図Ⅰ．後修科目は建築設計製図Ⅱ ＜備考＞図学と建築設計製図の基礎知識が身に付いていること．使用者の目線に立った設計を行うことが重要である．また作図はゆっくり丁寧に書く事，図面から空間を想像できるように心がけることが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	木造住宅の設計	課題の内容を理解し必要な資料を収集することができる．
		2週	敷地条件の検討	建築場所の周辺の検討を行う。隣接する建物・風景・道路の位置・気候・日当たりなどを確認する。
		3週	エスキス１	設計方針を整理し，設計主旨・必要諸室・機能を検討し平面・立面プランをまとめる．
		4週	エスキス２・エスキスチェック	設計主旨を説明し，エスキスチェックを受ける．不十分な部分の資料等を収集し，さらにエスキスを進める．
		5週	エスキス３・エスキスチェック	設計主旨を説明し，エスキスチェックを受ける．不十分な部分の資料等を収集し，さらにエスキスを進める．
		6週	エスキス４・エスキスチェック	再度エスキスし最良のプランをまとめるできる．
		7週	平面図の作成１	意図した内容が伝わるよう平面図を作成できる
		8週	平面図の作成２	意図した内容が伝わるよう平面図を作成できる
	2ndQ	9週	立面図の作成１	立体的に建物をとらえ立面図を作図できる．
		10週	立面図の作成２	立体的に建物をとらえ立面図を作図できる．
		11週	断面図の作成	適切な位置の断面図を作図できる．
		12週	矩計図の作成	木造住宅の構造を理解し矩計図を作図できる．
		13週	模型作成	設計図をもとに模型を作成することができる．
		14週	模型作成	設計図をもとに模型を作成することができる．
		15週	プレゼン・合同講評会	作成した図面と模型を使って設計主旨や建物の特徴を相手に伝えることができる．

		16週		

評価割合

	図面	模型				合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	100
配点	70	30	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語プレゼンテーション基礎

科目基礎情報

科目番号	0030	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	配布テキスト		
担当教員	ケント		

到達目標

技術者に必要な科学・技術に関する英語での表現を磨き，テーマについて口頭発表できる能力を身に付けることによって，学習教育目標（F-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
プレゼンテーション技術の理解	プレゼンテーションの技術を理解でき，自分の決めたテーマでプレゼンテーションの資料を作成できる	プレゼンテーションの技術を理解でき，プレゼンテーションの準備ができる	プレゼンテーションの技術を理解できない
プレゼンテーション	プレゼンテーションおよび質疑応答ができる	プレゼンテーションができる	プレゼンテーションと質疑応答ができない

学科の到達目標項目との関係

F F-2
F2

教育方法等

概要	技術者に必要な科学・技術に関する英語での表現を磨き，テーマについて口頭発表できるようになることを目指す.
授業の進め方・方法	英語で資料を作成し，プレゼンテーションの演習を行う. この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞プレゼンテーション（40%），ライティング（50%），課題（10%）の合計100点満点で評価し，60%以上の達成度で合格とする. ＜オフィスアワー＞月曜日　15:00～16:00

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Introduction & Speech writing	Students will know what is a good speech & How to organize speech writing
		2週	Speech writing & Format	Students will know to write and format a speech
		3週	Speech writing	Students will know how to write a speech and how to format a presentation
		4週	Physical Message	Students will know how to use body language
		5週	Vocal Message	Students will know how to use voice effectively
		6週	Vocal Message 2	Students will know how to use voice more effectively
		7週	Visual aids	Students will know how to write a speech and how to create and use visual aids
		8週	Finished speech CHECK & practice	Practice reading the final speech
	2ndQ	9週	Speech practice 1	Presentation practice
		10週	Speech practice 2	Presentation practice
		11週	Speech practice 3	Presentation practice
		12週	Speech practice 4	Presentation practice
		13週	Speech practice 5	Presentation practice
		14週	Final Presentation	Perform Final Presentation
		15週	Final Presentation and Feedback	Perform Final Presentation and receive feedback
		16週		

評価割合

	プレゼンテーション	ライティング	課題	その他	合計
総合評価割合	40	50	10	0	100
配点	40	50	10	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	コンクリート構造学Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0031	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：宮澤・岩月・氏家　他，「基礎から学ぶ鉄筋コンクリート工学」，朝倉書店		
担当教員	大原 涼平		

到達目標

コンクリート構造物の力学的特性を理解したうえで，許容応力度設計法,終局強度設計法，限界状態設計法により種々のコンクリート構造物を設計し得る能力を習得する.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
擁壁の安定に関する理解	擁壁の安定について説明ができ，安定計算ができる.	擁壁の安定について説明できる.	擁壁の安定について説明できない.
終局強度設計法・限界状態設計法に関する理解	終局強度設計法，限界状態設計法の説明ができ，安全性照査ができる.	終局強度設計法，限界状態設計法の説明ができる.	終局強度設計法，限界状態設計法の説明ができない.
プレストレストコンクリートに関する理解	プレストレストコンクリートの種類と応力計算の過程を説明できる.	プレストレストコンクリートの種類を説明できる.	プレストレストコンクリートの種類を説明できない.

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	曲げが作用するRC－T型断面の応力計算過程を説明できる．擁壁の安定について説明できる．終局強度設計法，限界状態設計法（終局限界状態）による安全性照査ができる．これらの内容を満足することで（D-1），（D-2）の達成とする.
授業の進め方・方法	・授業方法は講義を中心とし，授業内容に応じ演習問題を行う.
注意点	＜成績評価＞前期中間試験(40%)，前期期末試験(40%)，レポート(20%)の合計100点満点で（D-1），（D-2）を評価し，60点以上の評価が得られたものを本科目の合格者とする. ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16：00～17：00，環境都市工学科，大原教員室．この時間にとらわれず必要に応じて来室可. ＜先修科目・後修科目＞先修科目はコンクリート構造学Ⅰ. ＜備考＞構造力学，材料学の知識が必要不可欠.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	RC-Ｔ型断面の力学特性，フランジの有効幅	曲げが作用するRC-Ｔ型断面の力学特性，フランジの有効幅を説明できる.
		2週	単鉄筋・複鉄筋RC-T型断面の換算断面と応力計算	曲げが作用する単鉄筋・複鉄筋RC-Ｔ型断面の換算断面2次モーメントを用いた応力計算ができる.
		3週	RC断面に作用するせん断応力，付着応力	RC断面に作用するせん断応力，付着応力を説明できる.
		4週	RC断面に配置する斜引張鉄筋	RC断面に配置する斜引張鉄筋の種類と力学特性を説明できる.
		5週	擁壁の力学特性	擁壁の力学特性を説明できる.
		6週	擁壁の安定	擁壁の安定計算をできる.
		7週	擁壁縦壁の鉄筋量半減と擁壁基底の突起	擁壁縦壁の鉄筋量半減と擁壁基底の突起を説明できる.
		8週	終局強度設計法と終局荷重	終局強度設計法と終局荷重を説明できる.
	2ndQ	9週	等価応力ブロック	等価応力ブロックを説明できる.
		10週	終局強度設計法による安全性照査	終局強度設計法による安全性照査ができる.
		11週	限界状態設計法の種類・安全係数と特徴	限界状態設計法の種類・安全係数と特徴を説明できる.
		12週	終局限界状態設計法による安全性照査	終局限界状態設計法による安全性照査ができる.
		13週	プレストレストコンクリートの種類と使用材料	プレストレストコンクリートの種類と使用材料を説明できる.
		14週	プレストレストコンクリートの断面諸量と応力計算	プレストレストコンクリートの断面諸量と応力計算の過程を説明できる.
		15週	まとめ	
		16週	達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	100
配点	80	0	0	20	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	鋼構造学

科目基礎情報

科目番号	0032	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：宮本裕　他　『橋梁工学（第3版）』（技報堂出版）参考書：公益社団法人　日本道路協会　『道路橋示方書・同解説　I共通編　II鋼橋編』		
担当教員	奥山 雄介		

到達目標

・橋の構成を説明できる.
・橋に作用する荷重について説明できる.
・鋼材の性質について説明できる.
・許容応力度設計法を用いて安全照査ができる.
・部材の接合方法について説明できる.
・プレートガーダー橋の主桁の設計計算ができる.
これらの内容を満足することで学習・教育目標の（D-1）及び（D-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
橋の構成・分類	橋の構成を十分に説明できる.	橋の構成を説明できる.	橋の構成を説明できない.
荷重	橋に作用する荷重について十分に説明できる.	橋に作用する荷重について説明できる.	橋に作用する荷重を説明できない.
鋼材の性質	鋼材の性質について十分に説明できる.	鋼材の性質について説明できる.	鋼材の性質について説明できない.
構造部材の設計	許容応力度設計法を用いて十分に安全照査ができる.	許容応力度設計法を用いて安全照査ができる.	許容応力度設計法を用いた安全照査ができない.
部材の接合	部材の接合方法について十分に説明できる.	部材の接合方法について説明できる.	部材の接合方法について説明できない.
プレートガーダー橋	プレートガーダー橋の主桁の設計計算が十分にできる.	プレートガーダー橋の主桁の設計計算ができる.	プレートガーダー橋の主桁の設計計算ができない.

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	鋼構造物について，鋼材の性質，鋼材の強度，許容応力度，溶接およびボルト接合による部材の連結などを学ぶ．また，プレートガーダー橋を主題とした鋼橋の設計を通して，鋼構造の設計方法を学ぶ.
授業の進め方・方法	教科書に沿った内容で講義を行う．適宜，演習問題のプリントを用いる.
注意点	＜成績評価＞期末達成度試験等によって（D-1）及び（D-2）を評価し，60点以上の評価が得られた者を本科目の合格者とする. ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，奥山教員室．時間によらず必要に応じて来室可. ＜先修科目・後修科目＞先修科目は構造力学II，材料学 ＜備考＞構造力学の基礎と材料学の基本的な知識をしっかりと身につけていることが前提である．また，この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	概説	
		2週	橋の構成および分類	橋の構成を説明でき，橋の形式を分類できる.
		3週	橋の設計方法と設計基準	橋の設計法，各国の設計基準，橋のライフサイクルについて説明できる.
		4週	橋に作用する荷重	橋に作用する荷重について説明できる.
		5週	鋼材の性質と強さ	鋼材の性質と強さについて説明できる.
		6週	許容応力度(1)　～許容応力度の種類～	部材の許容応力度について説明できる.
		7週	許容応力度(2)　～許容応力度設計法を用いた安全照査～	許容応力度設計法を用いて部材の安全性を照査できる.
		8週	理解度の確認	
	4thQ	9週	部材の連結(1)　～ボルト接合①～	ボルト接合の種類を説明できる.
		10週	部材の連結(2)　～ボルト接合②～	許容応力度設計法を用いてボルト接合部の安全性を照査できる.
		11週	部材の連結(3)　～溶接接合①～	溶接接合の種類を説明できる.
		12週	部材の連結(4)　～溶接接合②～	許容応力度設計法を用いて溶接接合部の安全性を照査できる.
		13週	プレートガーダーの設計(1)　～概説～	部材名称，役割について説明できる．活荷重合成桁の主桁の設計方法を説明できる.
		14週	プレートガーダーの設計(2)　～死荷重強度・活荷重強度～	設計に用いる死荷重強度・活荷重強度を計算することができる.
		15週	プレートガーダーの設計(3)　～設計せん断力・設計曲げモーメント～	主桁に作用する設計せん断力・設計曲げモーメントを計算することができる.
		16週	期末達成度試験	

評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	計画数理学

科目基礎情報

科目番号	0033	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	教科書：大橋・柳澤『建設システム計画』，コロナ社/参考書：飯田恭敬編著『土木計画システム分析』，森北出版株式会社		
担当教員	柳澤 吉保		

到達目標

・統計的検定の手順が説明できること.
・回帰分析による予測モデルが作成できること.
・工程管理の日程の考え方が説明できること.
・シンプレックス法の流れが説明できること.
・純現在価値，便益費用比，内部収益率を説明できること.
これらの内容を満足することで,学習・教育目標の（D-1）及び（D-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
調査分析および予測モデル	調査データの分析およびモデル化が説明でき、検定およびモデル作成ができること。	調査データの検定およびモデル作成ができること。	調査データの分析およびモデル化が説明できない。また検定およびモデル作成ができない。
最適化手法	最適化手法が説明でき、最適値を求めることができること。	最適値を求めることができること。	最適化手法の説明と最適値を求めることができない。
評価分析	費用便益分析が説明でき、計算できる。	費用便益分析が計算できる。	費用便益分析の説明と計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1 D2

教育方法等

概要	整備事業などにおける計画とそのシステム分析の必要性を把握し，計画立案のプロセスで必要とされる現象の調査・分析，現象の予測，最適化と意志決定，事業の評価で扱われる各種手法を理解し，身につける.
授業の進め方・方法	テキストを中心に適宜，オペレーションズリサーチに関する資料を用いる.
注意点	＜成績評価＞４回の定期試験の合計100点満点で（D-1）及び（D-2）を評価し,合計の６割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする．各定期試験の重みは同じとする. ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，柳澤教員室. ＜先修・後修科目＞後修科目は都市計画，交通工学.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	計画数理学の意義	対象，目的，手段，構成を理解し，説明できる.
		2週	確率密度関数	確率密度関数を理解し，説明できる.
		3週	統計資料の整理と確率密度関数	現象に含まれる不確実性を，確率分布を用いて表現できる.
		4週	母分散が既知の平均値の検定	ｕ検定が行える.
		5週	母分散が未知の平均値の検定	ｔ検定が行える.
		6週	平均値の差の検定式の導出	平均値の差の検定式を導くことができる.
		7週	平均値の差の検定	平均値の差のｔ検定が行える.
		8週	等分散性の検定	F検定式を導き，検定が行える.
	2ndQ	9週	回帰分析によるパラメータ推定式の導出	パラメータの推定式を導出できる.
		10週	回帰分析によるモデルの作成	線形回帰による現象予測モデルを構築できる.
		11週	予測モデル作成	予測モデルの構築
		12週	回帰係数のｔ検定式と相関係数	ｔ検定式と相関係数を導出できる.
		13週	回帰係数のｔ検定式と相関係数の算定	ｔ検定と相関係数を算定できる.
		14週	回帰係数の評価	モデル係数をｔ検定，相関係数で評価できる.
		15週	ネットワーク手法による工程管理 工程管理の各種日程	ネットワークの規則を理解し，説明できる. 最早・最遅結合点日程，クリティカルパスを計算できる.
		16週	達成度試験	達成度試験
後期	3rdQ	1週	工程管理の各種余裕時間	フリーフロートなど各種余裕時間の意味を理解し，説明ができる.
		2週	工程管理の各種余裕時間の計算	フリーフロートなど各種余裕時間の意味を理解し，計算ができる.
		3週	作業日数にばらつきがある場合の３点見積	３点見積を用いて，日程計算ができる.
		4週	作業日数にばらつきがある場合の工程管理	日程を確率的に評価できる.
		5週	作業日数にばらつきがある場合の工程管理（２）	日程を確率的に評価できる(演習).
		6週	線形計画法の概念	最適化問題の定式化が行える.
		7週	シンプレックス法のための逆行列演算	ガウス－ジョルダン法による逆行列計算ができる.

		8週	標準型シンプレックス法の手順	スラック変数，技巧変数の導入の意味と，シンプレックス法の計算フローを説明できる.
	4thQ	9週	シンプレックス表の作成法	シンプレックス法を理解し説明できる.
		10週	最適解の導出	シンプレックス法を用いて，最適解を求めることができる.
		11週	罰金法を用いたシンプレックス法	罰金法を用いたシンプレックス法を使い最適解を求めることができる.
		12週	費用便益法の概念	純現在価値，便益費用比，内部収益率を理解し，説明できる.
		13週	費用便益法の計算	事業を純現在価値，便益費用比を用いて計算できる.
		14週	費用便益法の計算	事業を内部収益率を用いて計算できる.
		15週	費用便益による評価の考察	事業の規模と純現在価値，便益費用比，内部収益率の関係を考察できる.
		16週	到達度試験	到達度試験

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	情報処理

科目基礎情報

科目番号	0034	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	教材：授業中に頒布する資料		
担当教員	轟 直希		

到達目標

FORTRANのIF文，DOループ，配列，組み込み関数，サブルーチンを使って，種々のプログラムが作成できること．これらの内容を満足することで，（C-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
IF文，DOループ，配列，組み込み関数	FORTRANのIF文，DOループ，配列，組み込み関数を説明でき、プログラミングに応用できる．	FORTRANのIF文，DOループ，配列，組み込み関数を説明できる．	FORTRANのIF文，DOループ，配列，組み込み関数を理解していない．
サブルーチン	サブルーチンを使って，種々の応用プログラムが作成できる．	サブルーチンを使って，基本的なプログラムが作成できる．	サブルーチンを理解していない．
EXCELを活用した統計処理	EXCELの関数や分析ツール等を説明でき，適切な手法で統計処理を行うことができる．	EXCELの関数や分析ツール等を使って，統計処理を行うことができる．	EXCELの関数や分析ツール等を使うことができない．

学科の到達目標項目との関係

C C-2
C2

教育方法等

概要	プログラムの作成言語としてFORTRAN77を用いて，プログラムの作成に関する理論とテクニックを学習し，構造物の設計および安定計算等の技術計算に応用できる基礎知識を得る．また，表計算ソフトEXCELを用いて，図表の作成ならびに関数計算等のテクニックを習得する． 本科目は，企業で統計的手法を用いた社会調査を担当していた教員が，その経験を活かし，プログラムの構築やEXCELを活用した統計処理等について講義形式で授業を行うものである．
授業の進め方・方法	・授業方法は講義と実習を中心とし，演習問題や課題をだす．また，グループワークを実施する．
注意点	＜成績評価＞前期中間試験（25%），前期期末試験（25%），後期中間試験（25%），学年末試験（25%）の合計100点満点で（C-2）を評価し，合計の６割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00 ～ 17:00，環境都市工学科棟3F 第4教員室．この時間にとらわれず必要に応じて来室可． ＜先修科目・後修科目＞先修科目は情報技術基礎．後修科目はなし．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	情報基礎	・一般情報知識を説明できる ・ＯＳとＰＣの歴史が説明できる
		2週	基本的な用語	・FORTRAN77言語の概念と用語を説明できる
		3週	簡単な四則演算	・四則演算のプログラムや関数の作成ができる
		4週	論理IF文	・論理IF文を理解でき，プログラムや関数の作成ができる
		5週	ブロックIF文	・ブロックIF文を理解でき，プログラムの作成ができる
		6週	GOTO文	・GOTO文を理解でき，プログラムの作成ができる
		7週	DO WHILE文	・DO WHILE文を理解でき，プログラムの作成ができる
		8週	DO文	・DO文を理解でき，プログラムの作成ができる
	2ndQ	9週	条件分岐	・IFとGOTO文の組み合わせによる条件分岐を理解でき，プログラムの作成ができる
		10週	整数型変数	・整数型変数を理解でき，プログラムの作成ができる
		11週	実数型変数	・実数型変数を理解でき，プログラムの作成ができる
		12週	配列	・配列宣言とその方法が説明できる
		13週	並び替え	・並び替えができ，プログラムの作成ができる
		14週	行列の和と差・積の計算	・行列の和と差，積のプログラムの作成ができる
		15週	達成度試験	
		16週	達成度試験の振り返り	
後期	3rdQ	1週	文字列変数	・文字列変数を理解でき，プログラムの作成ができる
		2週	組み込み関数	・組み込み関数を理解でき，プログラムの作成ができる
		3週	ファイル処理	・ファイル処理が理解でき，プログラムの作成ができる
		4週	データ処理	・条件付きデータ抽出等の仕組みが理解でき，関数の作成ができる
		5週	FORMAT文	・FORMAT文を理解でき，プログラムの作成ができる

		6週	グラフの描画	・グラフ作成のためのデータをFORTRANプログラムで作成できる
		7週	関数副プログラム	・関数副プログラムを理解でき，プログラムの作成ができる
		8週	サブルーチン副プログラム	・サブルーチン副プログラムを理解でき，プログラムの作成ができる
	4thQ	9週	数式処理プログラム	・関数積分を求めるプログラムの作成できる ・方程式の解を求めるプログラムを作成できる
		10週	Excelを活用した集計・分析	・データの特性を表現する集計ならびに図表が作成できる
		11週	Excelを活用した統計処理（１）	・データの基本統計量を理解でき，算出することができる
		12週	Excelを活用した統計処理（２）	・平均値の差の検定を行うことができる ・分散分析を行うことができる
		13週	Excelを活用した統計処理（３）	・重回帰分析を理解でき，分析することができる
		14週	Excelを活用した統計処理（４）	・Excel関数やExcelデータベース関数（VLOOKUP，ピボットテーブル等）を理解でき，利用することができる
		15週	情報セキュリティ	・情報セキュリティの重要性や個人情報の考え方，インターネットの脅威を理解し，説明できる
		16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	実験実習Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0035	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 4
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	4
教科書/教材	教科書：土木学会編「水理実験解説書」土木学会　高専土質実験教育研究会編「新土質実験法」鹿島出版会 土木学会編「土木材料実験指導書」土木学会		
担当教員	遠藤 典男,松下 英次,酒井 美月,轟 直希 ,大原 涼平		

到達目標

水の基本的物理量の測定を通して理論・実験的に講義内容を理解し，授業内容を説明できる．管路や開水路の実験を行い，デ-タ処理や結果の考察などを通して，流れの問題に対する説明ができる．土の基本的物理量の測定手法を体験し，土の分類法を説明できる．土の力学的性質の試験を実施し，そのデータ処理や結果の考察などを通して授業内容を説明できる．セメントの基本的な物理量を理解し，セメントに関する種々の物理諸量の測定手法を説明できる．コンクリートの配合設計時に必要となる骨材の密度，粒度，含水量等の基本的物性を把握し説明できる．コンクリートの配合設計および混合・打設方法を把握し説明できる．
これらの内容を満足することで（D-1），（D-2）の達成とする．さらに，土質実験の『モデル実験』の課題で，実験方法の工夫を行うとともに，その挙動の理解・評価に必要な各種試験法，対処法などを検討することにより（E-1）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
水の基本的物理量	水の基本的物理量の測定手法を説明でき、結果を評価することができる。	水の基本的物理量の測定手法を説明できる。	水の基本的物理量の測定手法を説明できない。
管路や開水路	管路や開水路の実験より、デ-タ処理や結果の考察などを行い、それらを通じて、流れの問題や解決策を述べることができる。	管路や開水路の実験より、デ-タ処理や結果の考察などを行い、それらを通じて、流れの問題を述べることができる。	管路や開水路の実験より、デ-タ処理や結果の考察などを行うことができない。
土の基本的物理量	土の基本的物理量の測定手法を体験した上で、それらを理解し、土の分類法を説明できる。	土の基本的物理量の測定手法を体験し、土の分類法を説明できる。	土の基本的物理量の測定手法を体験し、土の分類法を説明できない。
土の力学的性質	土の力学的性質の試験より、データ処理や結果の整理などを行い、それらを通じて、考察（問題点や解決策）を述べることができる。	土の力学的性質の試験より、データ処理や結果の整理などを行い、それらを通じて、簡単な考察を述べることができる。	土の力学的性質の試験より、データ処理や結果の整理などを行うことができない。
骨材試験	コンクリートに使用する骨材の基本的物性値を測定でき、かつ説明できる.	骨材の基本的物性を測定できる.	骨材の基本的物性を測定できない.
配合設計とコンクリート試験	要求性能に対応したコンクリートの配合設計を説明できる．コンクリートの圧縮、引張、曲げ強度の試験方法を説明し、測定できる.	コンクリートを構成する材料の単位量を計算できる．コンクリートの圧縮，引張，曲げ強度を測定できる.	コンクリートを構成する材料の単位量を計算できない．コンクリートの圧縮，引張，曲げ強度を測定できない.

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2 E E-1
D1　D2　E1

教育方法等

概要	水理・土質・材料実験を通して授業内容の理解を深めるとともに，実験や観測で得られたデータの処理方法，結果の整理方法などを習得し，試験結果の考察に必要な素養を身につける．実験実習は，各人が出来るだけ直接実験に携われるように，小人数でのグループ分けを行い，ローテーション方式で実施する．本科目では企業で地盤の調査や試験を担当した教員がその経験を活かし，地盤の調査や試験について実習形式で授業を行うものである.
授業の進め方・方法	授業は実験を中心として，演習問題や課題を与える. ・適宜，レポート課題を課すので，期限に遅れずに提出すること.
注意点	＜成績評価＞ １）実験終了後に課せられるレポートの合計100点により（D-1），（D-2）を評価する．なお，各実験において課されるレポートの重みは同じとし，水理，土質，材料実験の重みは3分の1とする. ２）土質実験の『モデル実験』のレポートを100点により（E-1）を評価する. 本科目の成績は，１）を90%，２）を10%の合計100点満点とし，（D-1），（D-2）および（E-1）の全て学習・教育目標に対し6割以上の評価を得たものを，本科目の合格者とする．なお，いずれか１つの学習・教育目標でも6割未満の評価となったものは，不合格とし，本科目の成績を59点以下とする. ＜オフィスアワー＞ 毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，担当教員室. ＜先修科目・後修科目＞ 先修科目：実験実習Ⅱ，後修科目：実験実習Ⅳ ＜備考＞ 水理学，土質工学，材料学の授業内容を理解できていることが重要．各回の実験内容を整理・復習し，授業と実験を通し理解を確実にすることが大切である.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	水理実験：流量測定の基礎	水理学の実験で用いる機器の取り扱いについて学び、流量測定の基礎実験によりそれらを扱いことができるようになる.
		2週	水理実験：マノメータによる圧力差の測定	マノメータを取扱い、水圧差を測定することができる。

		3週	水理実験：ベンチュリメーターの利用	ベンチュリメータの説明と使用ができる.
		4週	水理実験：オリフィスからの流出実験（定水位）	定水位の流出による流量係数の測定ができる.
		5週	水理実験：オリフィスからの流出実験（変水位）	変水位の流出による流量係数の測定ができる.
		6週	水理実験：直角三角ぜきの検定	直角三角堰の説明と使用ができる.
		7週	水理実験：水門の流出実験・開水路の流速分布	水門からの流出機構について確認し，説明できる．開水路の流速分布について説明できる.
		8週	水理実験：管水路の各種損失	管水路の各種損失や流速との関係について説明できる.
	2ndQ	9週	水理実験：層流と乱流	層流と乱流の違いが理解でき，摩擦損失水頭とレイノルズ数の関係を説明できる.
		10週	水理実験：常流と射流	常流と斜流の基本事項を説明できる.
		11週	土質実験：土粒子の密度試験	土粒子部分のみの単位体積質量の測定手法を説明できる.
		12週	土質実験：土の粒度試験	土粒子の粒径の分布状態を調べ，粒径加積曲線の持つ意味を説明できる.
		13週	土質実験：液性・塑性限界試験	液性・塑性限界試験を通じて，土のコンシステンシー限界を説明できる.
		14週	土質実験：土の工学的分類	これまでに体験した土の基本的物理量の測定結果を基に，工学的分類法を説明できる.
		15週	土質実験：土の締固め試験	試験のデータ処理を通して，プロクターの原理を説明できる.
		16週	まとめ	
後期	3rdQ	1週	土質実験：一軸圧縮試験	一軸圧縮強さと非排水せん断強さの関係，鋭敏比について説明できる.
		2週	土質実験：土の一面せん断試験	垂直応力とせん断強さの関係よりクーロンの破壊基準を説明できる.
		3週	土質実験：透水試験	土の透水係数の求め方を学び，透水試験の適用方法について説明できる.
		4週	土質実験：土の圧密試験	圧密試験とそのデータ処理により圧縮指数，圧密降伏応力などについて説明できる.
		5週	土質実験：モデル実験	モデルの挙動を理解し，評価に必要な各種試験法，対処法などを挙げることができる.
		6週	材料実験：骨材試験のふるい分け試験	振るい分け試験方法を説明ができる．粗粒率を計算できる．粒度曲線を描くことができる.
		7週	材料実験：粗骨材の密度・吸水率	粗骨材の密度・吸水率の試験方法を説明でき，測定できる.
		8週	材料実験：骨材の単位容積質量・実積率試験	骨材の単位容積質量・実積率の試験方法を説明でき，測定できる.
	4thQ	9週	材料実験：細骨材の密度・吸水率試験	細骨材の密度・吸水率の試験方法を説明でき，測定できる.
		10週	材料実験：細骨材の表面水率試験	骨材の表面水率の試験方法を説明でき，測定できる.
		11週	材料実験：コンクリートの空気量・スランプ試験	コンクリートの空気量とスランプ試験の試験方法を説明でき，測定できる.
		12週	材料実験：コンクリートの配合設計・圧縮・引張・曲げ試験1	コンクリートの配合設計について説明できる．コンクリートの圧縮，引張，曲げ試験、および鉄筋コンクリートの曲げ試験に使用する供試体を作製できる.
		13週	材料実験：コンクリートの配合設計・圧縮・引張・曲げ試験2	コンクリートの圧縮試験，引張試験，曲げ試験の試験方法を説明でき，圧縮強度，引張強度，曲げ強度を測定できる.
		14週	材料実験：鉄筋コンクリートの曲げ試験1	鉄筋コンクリートの曲げ試験における，鉄筋降伏荷重，終局荷重を説明でき，計算できる.
		15週	材料実験：鉄筋コンクリートの曲げ試験2	鉄筋コンクリートの曲げ試験における，荷重-変位関係，鉄筋降伏荷重，終局荷重を図示できる.
		16週	まとめ	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	100
配点	0	0	0	100	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	設計製図Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0036	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	配布するプリント（コンクリート構造学の教科書も使用）		
担当教員	遠藤 典男		

到達目標

課題１に関しては構造物の現状を把握し，維持管理計画と補修方法の提案を行うことにより，課題２に関してはコンクリート構造物の設計計算書，製図を行うことにより，課題３に関しては社会的な問題点を抽出し，事前調査を行い，問題解決に資する新規RC構造物を提案することにより（E-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
構造物の現状把握と維持管理	構造物の現状を把握し，維持管理計画と補修方法の提案できる．	構造物の現状を把握できる．	構造物の現状を把握できない．
T桁橋の設計製図	T桁橋の構造特性を説明できる．T桁橋の設計計算書の作製と製図ができる．	T桁橋の設計計算書の作製と製図ができる．	T桁橋の設計計算書の作製と製図ができない．
コンクリート構造物の新設	社会的な問題点を抽出し，事前調査を行い，問題解決に資する新規コンクリート構造物を提案できる．	社会的な問題点を抽出し，問題解決に資する新規コンクリート構造物を提案できる．	社会的な問題点を抽出し，問題解決に資する新規コンクリート構造物を提案できない．

学科の到達目標項目との関係

E E-2
E2

教育方法等

概要	ＲＣ構造物の新設，維持管理，補修に関するテーマを自ら発掘し，適切な対応方法を提案することにより，構造物の設計，施工の基本的なプロセスを学習する．また，コンクリート構造学で習得する内容を実際の構造物に適用し得る能力の修得とともに，設計図を理解する能力を養うことを目標とする．
授業の進め方・方法	授業方法は講義と実習（設計計算と製図）を中心とする．時間外のフィールドワークも必要となる．
注意点	＜成績評価＞年3回提出する課題で（E-2）を評価し，各課題の合計が6割以上の評価が得られたものを本科目の合格者とする．各課題の重みは，課題1を10%，課題2を55%，課題3を35%とする． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16：00～17：00，環境都市工学科，遠藤教員室．この時間にとらわれず必要に応じて来室可． ＜先修科目・後修科目＞後修科目は設計製図Ⅲ． ＜備考＞コンクリート構造学，構造力学，および材料学の知識が必要不可欠． レポートおよび製図は，手書きにて提出することを基本とする．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	課題１：既存RC構造物の維持管理計画と補修方法の提案１	身近なRC構造物に関して，構造形式，外見上の劣化・損傷を評価する等の現状分析ができる．
		2週	課題１：既存RC構造物の維持管理計画と補修方法の提案2	対象とした構造物に対し，今後の維持管理計画，補修方法を提案できる．
		3週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －床版の断面設計	T桁橋の形状寸法と有効幅員を考慮したT荷重の載荷ができる．設計荷重から断面力を計算し，鉄筋量を算出し，安全性照査ができる．
		4週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －床版の製図1	設計したT桁橋の主桁，床版，ハンチを図示できる．
		5週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －床版の製図2	実際の配筋を考慮した床版下部の鉄筋を図示できる．
		6週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －床版の製図3	実際の配筋を考慮した床版下部の鉄筋を図示できる．
		7週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －床版の製図4	実際の配筋を考慮した床版上部の鉄筋を図示できる．
		8週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －床版の製図5	実際の配筋を考慮した床版上部の鉄筋を図示できる．
	2ndQ	9週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －主桁の断面設計1	T桁橋の形状寸法と有効幅員を考慮したL荷重の載荷ができる． 最大曲げモーメントを計算し，主桁主鉄筋量を算出したうえで，鉄筋の応力計算ができる．
		10週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －主桁の断面設計2	最大せん断力図，最大せん断応力度を計算できる．最大曲げモーメント図と最大せん断応力度図を用いて斜め引張鉄筋の配置区間を算出できる．
		11週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －主桁の断面設計3	斜め引張鉄筋の配置区間に応じた折り曲げ鉄筋の配置ができる．
		12週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －主桁の断面設計4	斜め引張鉄筋の配置区間に応じた折り曲げ鉄筋の配置ができる．
		13週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －主桁の断面設計5	斜め引張鉄筋の配置区間に応じたスターラップの配置ができる．

		14週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －主桁の断面設計6	斜め引張鉄筋の配置区間に応じたスターラップの配置ができる.
		15週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －断面図1	設計計算書と資料図面をもとに，断面図と配筋が描ける.
		16週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －断面図2	設計計算書と資料図面をもとに，断面図と配筋が描ける.
後期	3rdQ	1週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 －断面図3	設計計算書と資料図面をもとに，断面図と配筋が描ける.
		2週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 主桁側面図1	設計計算書と資料図面をもとに，主桁側面図と配筋が描ける.
		3週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 主桁側面図2	設計計算書と資料図面をもとに，主桁側面図と配筋が描ける.
		4週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 主桁側面図3	設計計算書と資料図面をもとに，主桁側面図と配筋が描ける.
		5週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 鉄筋加工図1	設計計算書と資料図面をもとに，鉄筋加工図が描ける.
		6週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 鉄筋加工図2	設計計算書と資料図面をもとに，鉄筋加工図が描ける.
		7週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 鉄筋加工図3	設計計算書と資料図面をもとに，鉄筋加工図が描ける.
		8週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 材料表，コンクリート体積，型枠面積	設計計算書，資料図面，作製した材料表，コンクリート体積，型枠面積が計算できる.
	4thQ	9週	課題２：RC単純Ｔ桁橋の設計製図 材料表，コンクリート体積，型枠面積	設計計算書，資料図面，作製した材料表，コンクリート体積，型枠面積が計算できる.
		10週	課題3：コンクリート構造物の新設計画－問題点抽出1	対象とした地域の交通渋滞，河川・鉄道・高規格道路等による社会的な問題点を評価できる.
		11週	課題3：コンクリート構造物の新設計画－問題点抽出2	対象とした地域の交通渋滞，河川・鉄道・高規格道路等による社会的な問題点を評価できる.
		12週	課題3：コンクリート構造物の新設計画－構造物建設に対する事前調査1	問題を解決するために構造物を建設する場所の各種事前調査を提案し実施できる.
		13週	課題3：コンクリート構造物の新設計画－構造物建設に対する事前調査2	問題を解決するために構造物を建設する場所の各種事前調査を提案し実施できる.
		14週	課題3：コンクリート構造物の新設計画－新規構造物の提案	事前調査を基に，抽出した問題点の改善に適した新規構造物の構造種別や規模等を提案できる.
		15週	課題3：コンクリート構造物の新設計画－施工計画	対象とした地域に新設の構造物を建設する場合，種々な支障が生じることがない施工計画が提案できる.
		16週	課題3：コンクリート構造物の新設計画－完成状態の表現	新設の構造物が完成した状態を，図や模型などにより表現できる.

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	100
配点	0	0	0	100	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	構造力学Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0037	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：宮本裕他著「構造工学の基礎と応用」第３版，技報堂出版教科書：宮本裕他著「構造工学」第4版，技報堂出版		
担当教員	奥山 雄介		

到達目標

・エネルギーを用いた解法により，たわみやたわみ角を計算できる.
・不静定構造物の計算をすることができる.
これらの内容を満足することで学習・教育目標の（D-1）及び（D-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
仕事・エネルギー法	エネルギーを用いた解法を十分に理解し，たわみやたわみ角を計算できる.	エネルギーを用いた解法を理解し，たわみやたわみ角を計算できる.	エネルギーを用いた解法を理解していない.
不静定構造物	複雑な不静定構造物の計算をすることができる.	不静定構造物の計算をすることができる.	不静定構造物の計算ができない.

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1 D2

教育方法等

概要	構造物の設計・施工の力学的基本を学び，不静定構造物の強弱・力学的性質の把握，エネルギー論やその他たわみ角法，三連モーメントなどにより，合理的かつ経済的な設計ができる知識を修得する.
授業の進め方・方法	教科書に沿った内容で講義を行う．適宜，演習問題のプリントを用いる.
注意点	＜成績評価＞期末達成度試験等によって（D-1）及び（D-2）を評価し，60点以上の評価が得られた者を本科目の合格者とする. ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，奥山教員室. ＜先修科目・後修科目＞先修科目は構造力学I，構造力学II，後修科目は耐震工学となる. ＜備考＞構造力学Iや構造力学IIでの理解があり，基本問題が解法できること．また，本科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて自学自習時間60時間が必要である.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	仕事・エネルギー法(1)　～概説～	仕事・エネルギーによる解法について説明することができる.
		2週	仕事・エネルギー法(2)　～カスティリアノの定理①～	カスティリアノの定理を用いて，はりのたわみ等を計算できる.
		3週	仕事・エネルギー法(3)　～カスティリアノの定理②～	カスティリアノの定理を用いて，はりのたわみ等を計算できる.
		4週	仕事・エネルギー法(4)　～仮想仕事の原理①～	仮想仕事の原理を用いて，はりのたわみ等を計算できる.
		5週	仕事・エネルギー法(5)　～仮想仕事の原理②～	仮想仕事の原理を用いて，はりのたわみ等を計算できる.
		6週	仕事・エネルギー法(6)　～相反作用の定理①～	相反作用の定理を用いて，はりのたわみ等を計算できる.
		7週	仕事・エネルギー法(7)　～相反作用の定理②～	相反作用の定理を用いて，はりのたわみ等を計算できる.
		8週	理解度の確認	
	2ndQ	9週	不静定構造(1)　～概説～	不静定構造物について説明できる.
		10週	不静定構造(2)　～静定基本系による解法①～	静定基本系を用いた解法により，不静定ばりの断面力を計算することができる.
		11週	不静定構造(3)　～静定基本系による解法②～	静定基本系を用いた解法により，不静定ばりの断面力を計算することができる.
		12週	不静定構造(4)　～3連モーメント式による解法①～	3連モーメント式を用いた解法により，不静定ばりの断面力を計算することができる.
		13週	不静定構造(5)　～3連モーメント式による解法②～	3連モーメント式を用いた解法により，不静定ばりの断面力を計算することができる.
		14週	不静定構造(6)　～たわみ角法による解法①～	たわみ角法を用いた解法により，不静定ラーメンの断面力を計算することができる.
		15週	不静定構造(7)　～たわみ角法による解法②～	たわみ角法を用いた解法により，不静定ラーメンの断面力を計算することができる.
		16週	期末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	課題	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	水理学Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0038	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	教科書：日下部重幸「水理学」　コロナ社 参考書：椿　東一郎「水理学I、II」　森北出版		
担当教員	酒井 美月		

到達目標

３年次に修得した水理学的の基礎の上にたち，管路や開水路，更には地下水に至る流れの実際的な問題の理論的背景を説明でき，設計に必要な数値を算出できる．これにより学習・教育目標Ｄ-１，Ｄ-2の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 管路	管路について分岐、合流、管網、サイホン、伏せこしなどの条件について理論を学び、それぞれの状況にあった水理学上の諸量を計算することが出来る。発電水力、ポンプ揚水、水撃圧に関する理論を学び演習問題を解くことができる。	管路について分岐、合流、管網、サイホン、伏せこし、発電水力、ポンプ揚水、水撃圧に関する演習問題を解くことができる。	管路の分岐、合流、管網に関する問題を解くことができない。
評価項目2 開水路	開水路の基礎式、平均流速公式、不等流の運動方程式、河川の水面形について理論的背景を理解し、水路の設計に必要な諸量の計算、水面形の判断手法の使用、関連の演習問題を解くことができる.	開水路の基礎式、平均流速公式、不等流の運動方程式、河川の水面形について理論的背景を理解し、関連の演習問題を解くことができる。	開水路、河川の水面形に関する問題を解くことができない。
評価項目3 地下水と波	地下水の流速、井戸の揚水量、提体の漏水、河床暗渠、波に関連する演習問題を理論の理解、公式の利用から解くことができる。流体中に働く力の理論を理解し、津波の基本的な計算を行うことが出来る。	地下水の流速、井戸の揚水量、提体の漏水、河床暗渠、波に関連する演習問題を解くことができる。	地下水の水理を理解できない。地下水、波に関連する演習問題を解くことができない。
評価項目4 水文基礎	日本の気象の特徴について、降雨災害と地形との関係から説明できる.水文量の観測方法を説明でき、流域平均雨量を算出できる。河川の分類と流域、及び管理と整備について河川調査の種類や目的・計画をふまえて説明できる。	日本の気象の特徴について説明できる。流域平均雨量を算出できる。河川の分類と流域、及び管理と整備について基本的な説明ができる。	日本の気象の特徴について、および河川の分類と流域、管理と整備について説明ができない。流域平均雨量を算出できない。

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	工学で実際に扱う管路，開水路，地下水等の問題に関する基礎知識を学び，演習問題を解くことを通して問題の解法を修得する.
授業の進め方・方法	・授業方法は講義を中心とし，適宜，演習問題や課題を行う. ・講義はプロジェクターおよび板書でおこない、講師資料は随時閲覧可能とする. ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞年4回の到達度試験および授業時間内の小テストにより100点満点で（D-1），（D-2）を評価する．ただし，各到達度試験の重みは同じとする．評価結果60点以上を合格とする. ＜オフィスアワー＞原則として，毎週水曜日，16：00～17：00，環境都市工学科，酒井教員室にて対応する．この時間にとらわれず必要に応じて来室可. ＜先修科目・後修科目＞先修科目は水理学I、後修科目は環境水工学、建設環境衛生学 ＜備考＞3年次に学んだ水理学の基礎知識の上に積み重ねていくため,3年次の範囲を十分に理解しておく必要がある.演習の果たす役割も大きいので,講義ノートをとり復習して理解を確実にする努力が大切である.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	合流と分岐、管網	合流と分岐の理論を学び演習問題を解くことが出来る.
		2週	管網1	管網の理論を学び演習問題を解くことが出来る.
		3週	管網2	管網の理論を学び演習問題を解くことが出来る.
		4週	サイホン、伏せこし	サイホンの理論を学び演習問題を解くことが出来る.
		5週	発電水力	発電水力関する理論を学び演習問題を解くことができる.
		6週	ポンプ揚水	ポンプ揚水に関する理論を学び演習問題を解くことができる.
		7週	水撃圧	水撃圧の理論を学び問題を解くことができる.
		8週	理解度の確認	7週までの理解度を確認する

	2ndQ	9週	流れの運動方程式	完全流体からレイノルズの方程式までの中で運動方程式に対する理解を深める.
		10週	流速分布式1	乱流における流速分布式の基礎を学ぶ．ナビエストークス式から流速分布式を理解する.
		11週	流速分布式2	乱流における流速分布式の基礎を学ぶ．ナビエストークス式から流速分布式を理解する.
		12週	開水路の基礎	開水路の基礎方程式を理解する.
		13週	開水路１　等流	等流に関する知識を学び、基礎的な諸量を求めることができる.
		14週	開水路２　急変流	常流・射流・跳水に関する知識をまなび、問題を解くことができる.
		15週	開水路３　漸変流	水面形を求めることができる.
		16週	前期学習到達度試験	
後期	3rdQ	1週	開水路4	開水路の問題に関し演習を行い理解を深める．水路の設計に必要な諸量の算出方法になれ，計算をすることが出来る.
		2週	地下水の流速	地下水の水理の理論を理解する.
		3週	井戸の揚水量１	井戸の理論を学び演習問題を解くことが出来る.
		4週	井戸の揚水量2	井戸の理論を学び演習問題を解くことが出来る.
		5週	群井	群井に関する演習問題を解くことが出来る.
		6週	提体の漏水、河床暗渠、提体の浸潤	提体の漏水や河床暗渠の理論、堤防の浸潤について理解する.
		7週	抗力と揚力、流体流の物体に作用する力、波の分類（１）	流体中の物体に働く力の理論を説明することが出来る.
		8週	抗力と揚力、流体流の物体に作用する力、波の分類（２）	流体中の物体に働く力の理論を学び，セイシュや津波の基本的な計算を行う.
	4thQ	9週	水の循環	日本の気象の特徴について説明できる．降雨災害と地形との関係を説明できる．水文量の観測方法を説明でき、流域平均雨量を算出できる.
		10週	河川の分類と管理	河川の分類と流域及び管理と整備について説明できる.
		11週	河川調査	河川調査の種類や目的・計画について説明できる.
		12週	河川計画	河川整備計画やそれに関わる河川法の改正による流れについて説明できる.
		13週	河川工作物、河川砂防	河道およびダムによる洪水対策を説明できる.
		14週	水辺の生態学と流域環境	生物多様性の危機的状況を説明できる．環境共生型社会のあり方について説明できる.
		15週	流域治水	流域治水とその取り組みについて説明できる.
		16週	期末到達度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	土質工学Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0039	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	赤木知之，他著「土質工学」コロナ社，友久誠司，竹下治之著「施工管理学」コロナ社		
担当教員	松下 英次		

到達目標

土のせん断強さの考え方とその応用について説明できること．ランキン土圧およびクーロン土圧の理論とその応用について説明できること．基礎の支持力および基礎の施工法の考え方について説明できること．斜面の安定性を検討する解析理論および計算手法について説明できること．土工の目的および施工法ついて説明できること．これらの内容を満足することで，学習・教育目標の（D-1）および（D-2）を達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
土のせん断強さ	土のせん断強さの考え方とその応用について説明できる	土のせん断強さの考え方について説明できる	土のせん断強さの考え方について説明できない
ランキン土圧およびクーロン土圧	ランキン土圧およびクーロン土圧の理論とその応用について説明できる	ランキン土圧およびクーロン土圧の理論について説明できる	ランキン土圧およびクーロン土圧の理論について説明できない
基礎の支持力および基礎の施工法	基礎の支持力および基礎の施工法の考え方とその応用について説明できる	基礎の支持力および基礎の施工法の考え方について説明できる	基礎の支持力および基礎の施工法の考え方について説明できない
斜面の安定性を検討する解析理論および計算手法	斜面の安定性を検討する解析理論および計算手法とその応用について説明できる	斜面の安定性を検討する解析理論および計算手法について説明できる	斜面の安定性を検討する解析理論および計算手法について説明できない
土工の目的および施工法	土工の目的および施工法とその応用について説明できる	土工の目的および施工法ついて説明できる	土工の目的および施工法ついて説明できない

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1 D2

教育方法等

概要	3年次の土質工学Ⅰからの継続で，土質力学の基礎理論を学ぶとともに，その評価手法，基本的な応用能力を養うことを目的とする．授業では講義および演習を主体とし，基礎理論およびその応用手法について習得する．本科目では企業で地盤の調査や試験を担当した教員がその経験を活かし，地盤の調査や試験について講義形式で授業を行うものである．
授業の進め方・方法	授業は講義を中心とし，適宜，演習を行う．
注意点	＜成績評価＞ ４回の定期試験で（D-1）および（D-2）を評価する．合計100点満点とし，各定期試験の重みは同じとする．合計の６割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする． ＜オフィスアワー＞ 毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科棟3F　302教員室 ＜先修科目・後修科目＞ 先修科目：土質工学Ⅰ ＜備考＞ ４年次の土質工学Ⅱの授業では，力学系に対する基本的な知識についてよく理解できていることが応用問題を理解する場合に特に重要となる．また，講義内容を整理・復習し，理解をより確実にしておくことが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	土のせん断強度の概念	土の破壊基準・強度定数について理解する．
		2週	土のせん断試験（1）	各種せん断試験の概要を学び，強度定数の求め方および適用方法について理解する．
		3週	土のせん断試験（2）	各種せん断試験の概要を学び，強度定数の求め方および適用方法について理解する．
		4週	砂質土および粘性土のせん断特性（1）	砂質土および粘性土の非排水および排水条件におけるせん断挙動を学び，理解する．
		5週	砂質土および粘性土のせん断特性（2）	砂質土および粘性土の非排水および排水条件におけるせん断挙動を学び，理解する．
		6週	砂質土および粘性土のせん断特性（3）	砂質土および粘性土の非排水および排水条件におけるせん断挙動を学び，理解する．
		7週	土の動的特性	飽和砂の液状化現象および動的強度の求め方について理解する．
		8週	土圧の概念	土圧の定義と特徴について学び，主働土圧，受働土圧お よび静止土圧と壁面の変位との関係について理解する．
	2ndQ	9週	ランキンの土圧（１）	モール・クーロンの破壊条件とランキン土圧の関係を学び，公式の適用・評価手法および実際問題への適用方法を理解する．
		10週	ランキンの土圧（２）	モール・クーロンの破壊条件とランキン土圧の関係を学び，公式の適用・評価手法および実際問題への適用方法を理解する．

		11週	クーロンの土圧（１）	クーロン土圧公式の適用・評価手法について学び，実際問題への応用およびクーロン土圧との相違点を演習を通して理解する．
		12週	クーロンの土圧（２）	クーロン土圧公式の適用・評価手法について学び，実際問題への応用およびクーロン土圧との相違点を演習を通して理解する．
		13週	鉛直自立高さ・静止土圧と土圧分布	土の粘着力が主働土圧に及ぼす影響を学び，地盤の鉛直自立高さの評価方法を理解する．静止土圧を学び，壁体の変形と主働・静止・受働土圧が土圧分布におよぼす影響について理解する．
		14週	土圧論の応用（１）	擁壁の滑動，転倒に対する安定および地盤の支持力について理解する．
		15週	土圧論の応用（２）	擁壁の滑動，転倒に対する安定および地盤の支持力について理解する．
		16週	達成度試験	達成度試験の結果から前期の学修範囲について概観・到達度の確認をする．
後期	3rdQ	1週	地盤の支持力	地盤内の変形状態の推移について学び，地盤破壊のパターンと荷重－下関係について理解する．
		2週	浅い基礎の支持力（1）	テルツァギの支持力式の評価方法について学び，基礎地盤のとらえ方について演習によりその適用・応用方法について理解する．
		3週	浅い基礎の支持力（2）	テルツァギの支持力式の評価方法について学び，基礎地盤のとらえ方について演習によりその適用・応用方法について理解する．
		4週	深い基礎の支持力（1）	杭など深い基礎に関する支持力の評価方法を学び，群杭，ネガティブフリクションを理解する．
		5週	深い基礎の支持力（2）	杭など深い基礎に関する支持力の評価方法を学び，群杭，ネガティブフリクションを理解する．
		6週	基礎工（1）	基礎工の種類別に目的と施工法について理解する．
		7週	基礎工（2）	基礎工の種類別に目的と施工法について理解する．
		8週	斜面の安定	斜面の破壊形状と安定性評価方法を理解する．
	4thQ	9週	半無限斜面の安定解析（1）	直線状すべり面の安定性を検討する解析理論と計算手法を説明できる．
		10週	半無限斜面の安定解析（1）	直線状すべり面の安定性を検討する解析理論と計算手法を説明できる．
		11週	円弧すべり面における安定解析（1）	円弧状すべり面の安定性を検討する解析理論と計算手法を説明できる．
		12週	円弧すべり面における安定解析（2）	円弧状すべり面を検討する解析理論と計算手法を説明できる．
		13週	自然斜面の崩壊	自然斜面の崩壊要因と対策工について理解する．
		14週	土工（1）	土工の目的と施工法について理解する．
		15週	土工（2）	掘削方法と運搬方法について説明できる．盛土の品質管理について説明できる．
		16週	達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	実務訓練

科目基礎情報

科目番号	0040	科目区分	専門 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	参考書：実務訓練の手引		
担当教員	柳澤 吉保 ,遠藤 典男,古本 吉倫,西川 嘉雄,松下 英次,酒井 美月,浅野 憲哉,轟 直希 ,奥山 雄介,大原 涼平		

到達目標

実務訓練を通じて専門分野に関連した実践的な業務に携わり，業務の概要を説明できることで（G-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
企業説明会	企業の業務内容を理解し，自らの将来像と照らし合わせ企業分析ができる.	企業の業務内容を理解し企業分析できる.	企業の業務内容などの分析ができない.
実務訓練	企業担当者と連携し，自ら進んで実習を遂行できる.	企業から提示された実習を遂行できる.	無断欠席や遅刻等があり，実習を遂行できない.
報告書	企業の業務内容と自ら体験した実習内容を具体的事例を示しながら説明できる.	実習内容を説明できる.	実習内容を説明できない.

学科の到達目標項目との関係

G G-2
G2

教育方法等

概要	企業・官庁などにおける学外実習を通じて，専門分野に関連した業務を積極的に行い，その中より実践的な技術感覚を体得するとともに，技術者として必要な適応力を養う. また企業・機関などでの実習体験から，今後の学生生活での学習意欲の向上と，進路決定の一助とする.
授業の進め方・方法	・授業方法は講義を中心とし，演習問題や課題をだす. ・適宜，レポート課題を課すので，期限に遅れず提出すること.
注意点	＜成績評価＞ ・実務訓練先からの実習証明書（60%），提出された報告書（40%）の合計100点満点で（G-2）を評価し，各項目で6割以上獲得した者をこの科目の合格者とする. 　不合格者の成績は，合計が60点以上の場合は59点とする. ＜オフィスアワー＞ ・水曜日15:00～17:00，環境都市工学科，担当教員室．ただし，会議などで不在の場合があります. ＜先修科目・後修科目＞ ・ ＜備考＞ ・実習先は，原則として帰省先から通勤可能な範囲とする．7月に各自保険に加入するが，期間により費用は異なる.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	履修の説明	インターンシップの意味を理解する.
		2週	インターンシップ事業1　説明会	実習受け入れ企業･機関の方に，実習する上で必要なこ説明していただき，実習テーマと受け入れ機関の選択に対する研究を行う.
		3週	インターンシップ事業2　研修会（1）	実習の前に実務訓練への心構え，事前打ち合わせについて学び，受け入れ企業・機関の方と打ち合わせを行うことができる.
		4週	インターンシップ事業2　研修会（2）	実習の前に実務訓練への心構え，事前打ち合わせについて学び，受け入れ企業・機関の方と打ち合わせを行うことができる.
		5週	インターンシップ事業3　実務訓練（1）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.
		6週	インターンシップ事業3　実務訓練（2）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.
		7週	インターンシップ事業3　実務訓練（3）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.
		8週	インターンシップ事業3　実務訓練（4）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.
	2ndQ	9週	インターンシップ事業3　実務訓練（5）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.
		10週	インターンシップ事業3　実務訓練（6）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.
		11週	インターンシップ事業3　実務訓練（7）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.
		12週	インターンシップ事業3　実務訓練（8）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.
		13週	インターンシップ事業3　実務訓練（9）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.
		14週	インターンシップ事業3　実務訓練（10）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる.

		15週	インターンシップ事業3　実務訓練（11）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
		16週		
後期	3rdQ	1週	インターンシップ事業3　実務訓練（12）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
		2週	インターンシップ事業3　実務訓練（13）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
		3週	インターンシップ事業3　実務訓練（14）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
		4週	インターンシップ事業3　実務訓練（15）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
		5週	インターンシップ事業3　実務訓練（16）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
		6週	インターンシップ事業3　実務訓練（17）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
		7週	インターンシップ事業3　実務訓練（18）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
		8週	インターンシップ事業3　実務訓練（19）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
	4thQ	9週	インターンシップ事業3　実務訓練（20）	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う．実践的な技術感覚を養い，積極的に実習を行うことができる．
		10週	インターンシップ事業4　報告会（1）	実習の内容や実習で得られたこと，後輩へのアドバイスを中心とした，報告書を作製することができる．また，報告書の内容を解り易く説明することができる．
		11週	インターンシップ事業4　報告会（2）	実習の内容や実習で得られたこと，後輩へのアドバイスを中心とした，報告書を作製することができる．また，報告書の内容を解り易く説明することができる．
		12週	学科内での報告会	実習の内容や実習で得られたこと，後輩へのアドバイスを中心とした，報告書を作製することができる．また，報告書の内容を解り易く説明することができる．
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
配点	0	0	0	0	100	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	土木工学特論

科目基礎情報

科目番号	0041	科目区分	専門 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	テキスト：ガイダンスにおける配付資料/参考書：多変量統計解析書など		
担当教員	柳澤 吉保		

到達目標

目的，方法，解析および結論など，作業概要を説明できることで学習・教育目標（G-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
データの収集、加工、集計	調査データの分析手法を把握し、有効に実施できる。	調査データの分析手法を実施できる。	調査データの分析手法を実施できない。
集計されたデータを用いたモデルと施策への提言	現象を十分に説明できる予測モデルを作成できる。	予測モデルを作成できる。	予測モデルを作成できない。

学科の到達目標項目との関係

G G-2
G2

教育方法等

概要	都市計画の意義・必要性，歴史，プロセスとフレームワークを把握する．また都市計画を構成する土地利用，都市施設計画，市街地開発事業など，都市計画事業に必要な専門用語，行政の仕組みと技術的手法についての基礎的な知識を身につける.
授業の進め方・方法	テキストを中心に適宜，都市計画に関する資料を用いる.
注意点	＜成績評価＞報告書の合計100点満点で（G-2）を評価し,合計の６割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする. ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，柳澤教員室. ＜先修・後修科目＞ ＜備考＞計画数理学を理解していること．専門/選択科目の「実務訓練」を履修できなかった場合に開講する.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	実施ガイダンス	本講義の目的と意義を理解し，実施要領を確認する.
		2週	実施テーマの決定	各自取り組むテーマを決定するとともに，実施計画を作成する.
		3週	データの収集作業	テーマに基づいて必要な土木計画および社会経済に関するデータを収集する.
		4週	データの収集作業（２）	テーマに基づいて必要な土木計画および社会経済に関するデータを収集する.
		5週	データの収集作業（３）	テーマに基づいて必要な土木計画および社会経済に関するデータを収集する.
		6週	データの整理	収集したデータをパソコンに取り込むとともに，解析を行うためにデータを整理する.
		7週	データの整理（２）	収集したデータをパソコンに取り込むとともに，解析を行うためにデータを整理する.
		8週	データの整理（３）	収集したデータをパソコンに取り込むとともに，解析を行うためにデータを整理する.
	2ndQ	9週	解析作業	多変量統計解析ソフトを用いて，社会現象の予測および公共施設整備の評価を行う.
		10週	解析作業（２）	多変量統計解析ソフトを用いて，社会現象の予測および公共施設整備の評価を行う.
		11週	解析作業（３）	多変量統計解析ソフトを用いて，社会現象の予測および公共施設整備の評価を行う.
		12週	解析作業（４）	多変量統計解析ソフトを用いて，社会現象の予測および公共施設整備の評価を行う.
		13週	解析作業（５）	多変量統計解析ソフトを用いて，社会現象の予測および公共施設整備の評価を行う.
		14週	報告書の作成	事前計画，作業内容，解析結果にも続き報告書を作成し，提出する.
		15週	報告書の作成（２）	事前計画，作業内容，解析結果にも続き報告書を作成し，提出する.
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		

		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	70	30	100
配点	0	0	0	70	30	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	地理情報システム

科目基礎情報

科目番号	0042	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	参考書：大杉和由，福島博行他「測量」実教出版　大木正喜「測量学」，森北出版 その他配布資料		
担当教員	松下 英次,轟 直希		

到達目標

都市計画，環境，防災など様々な分野で必要となる社会や空間の情報を入手し，処理・解析するための方法を理解し，説明できる．以上により（D-1）および（D-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
写真測量・レーザー測量	写真測量やレーザー測量に関する知識を正しく理解したうえで，空中写真測量に関わる計算の導出方法を踏まえて説明ができる．	写真測量やレーザー測量に関する手順を理解し，その計算方法が説明ができる．	写真測量やレーザー測量に関する手順やその計算方法を理解していない．
GIS	GISにおいて，それに関わる基礎理論を踏まえて，オープンデータの利用やその活用方法について説明できる．	GISにおいて，オープンデータの利用やその活用方法が説明できる．	GISにおいて，オープンデータの利用やその活用方法を理解していない．
マルチコプター	マルチコプターに関する歴史や機構を理解したうえで，関連法規を踏まえ，その活用方法を説明できる．	マルチコプターに関する知識を理解したうえで，その活用方法を説明できる．	マルチコプターに関する知識やその活用方法を理解していない．

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2

教育方法等

概要	これまで学んだ距離測量，平板測量，トラバース測量，水準測量、応用測量（路線測量，基準点測量）を踏まえ、都市計画，環境，防災など様々な分野で必要となる社会や空間の情報を入手し，処理・解析するための方法について学ぶ．
授業の進め方・方法	・授業方法は講義と演習を行い，問題や課題をだす． ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える．
注意点	＜成績評価＞前期末試験を100点満点で評価し，60点以上をもって（D-1）および（D-2）の達成とする． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00 ～ 17:00，環境都市工学科棟3F　轟教員室．この時間にとらわれず必要に応じて来室可． ＜先修科目・後修科目＞先修科目は測量学応用．後修科目はなし． ＜備考＞３学年までに習得した距離測量，平板測量，角測量，水準測量、路線測量、座標系等の基本をしっかり身に付けておくことが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	概論，空中写真測量	・空中写真測量の縮尺や土地の高低差によるひずみの計算ができる．
		2週	リモートセンシング	・リモートセンシングの原理を理解し，衛星画像を利用した環境解析等について計算できる．
		3週	地理情報システム（GIS）の基礎的理論と用語	・GISの基礎的理論と用語を説明できる．
		4週	統計GISを用いた解析１	・GISを用いた空間情報の地図表現ができる． ・オープンデータを利用できる．
		5週	統計GISを用いた解析２	・統計情報等の入手方法を理解し，表示できる．
		6週	QGISを用いた解析１	・GISの基礎的な操作方法について説明できる．
		7週	QGISを用いた解析２	・GISを活用したジオコーディングやジオリファレンスについて説明できる．
		8週	QGISを用いた解析３	・GISのレイアウトとエクスポートについて説明できる．
	4thQ	9週	QGISを用いた解析４	・オープンデータを活用したGISマップを作成できる．
		10週	QGISを用いた解析５	・防災・環境面での活用や援用方法について説明できる．
		11週	QGISを用いた解析６	・自ら設定した課題について，GISの機能を活用して説明できる．
		12週	無人航空機（UAV)を用いた公共測量	・公共測量におけるUAVの使用に関する作業手順や安全基準を説明できる．
		13週	写真測量の理論と方法１	・写真測量の原理を理解できる．
		14週	写真測量の理論と方法２	・写真測量の原理を理解でき，補正計算をすることができる．
		15週	レーザー測量の理論と方法	・レーザー測量の原理を理解できる．
		16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100
	0	0	0	0	0	0

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建設環境衛生学I

科目基礎情報

科目番号	0043	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	［教科書］ 津野洋 他，テキストシリーズ土木工学7 環境衛生工学，共立出版 ［参考書］ 奥村充司他，環境・都市システム系 教科書シリーズ 17　環境衛生工学，コロナ社.　　松尾友矩他，大学土木 水環境工学（改訂3版），オーム社		
担当教員	浅野 憲哉		

到達目標

建築・土木分野と関連の深い環境衛生工学を対象とし，水域や建築物に関する環境問題を理解するとともに，環境保全のための解決法の検討ができること．特に，衛生工学に対しては建築物も含めた上水道および下水道の社会的な役割としくみを，廃棄物と化学物質に対しては，環境に与える影響と適切な対策方法を説明できること．
これらの内容を満足することで，学習・教育目標のD-1およびD-2の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
水質指標（pH, DO, BOD, SS, COD等）	水質指標（pH, DO, BOD, SS, COD等）について、指標や測定方法の意義を理解し、詳細な説明ができる。	水質指標（pH, DO, BOD, SS, COD等）について、指標や測定方法の意義をある程度理解し、一般的な説明ができる。	水質指標（pH, DO, BOD, SS, COD等）について、理解できておらず説明できない。
上水道の施設と浄水プロセス	上水道の施設と浄水プロセスについて理解し、詳細な説明ができる。	上水道の施設と浄水プロセスについてある程度理解し、一般的な説明ができる。	上水道の施設と浄水プロセスについて理解しておらず説明できない。
下水道の私設と汚水処理プロセス	下水道の私設と汚水処理プロセスについて理解し、詳細な説明ができる。	下水道の私設と汚水処理プロセスについてある程度理解し、一般的な説明ができる。	下水道の私設と汚水処理プロセスについて理解できておらず説明できない。

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2

教育方法等

概要	衛生分野の技術者に広く求められる建設分野の環境科学全体について学習し，知識を身につける．環境中の採水から建築物での上水道利用や、建築物での排水の発生から下水道の汚水処理に至る衛生工学を学び，水質汚染，廃棄物処理や施設内における化学物質のリスクを学習する．
授業の進め方・方法	・授業方法は講義を中心とし，演習問題や課題をだす． ・適宜，レポート課題を課すので，期限に遅れず提出すること．
注意点	＜成績評価＞ ・４回の到達度試験で評価する．ただし，各定期試験の重みは同じとする． 合計100点満点でD-1およびD-2を評価し，合計の６割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする． ＜オフィスアワー＞ ・放課後16:00～17:00，浅野教員室．この時間にとらわれずに必要に応じて来室してください．また，会議などで不在の場合があります． ＜先修科目・後修科目＞ ・先修科目は、水理学Ⅱ, 建築計画 ＜備考＞ ・化学および環境問題全般に関する知識が必要となる．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	水質総論	環境基準・排水基準等の各種水質基準について基準値の意義を理解する．
		2週	水質汚濁と水質指標（1）	水質汚濁に関わる水質指標（SSおよび DO）の意義と分析技術を理解する．
		3週	水質汚濁と水質指標（2）	水質汚濁に関わる水質指標（BODおよびCOD）の意義と分析技術を理解する．
		4週	水環境と環境基準（1）	富栄養化に関する環境基準について理解する．
		5週	水環境と環境基準（2）	富栄養化と水循環について理解する．
		6週	水環境の自浄作用	BOD成分と溶存酸素と自浄作用の関連を理解する．
		7週	下水道の役割	下水道の役割と現状，汚水処理の種類を説明できる．
		8週	下水道計画	下水道の基本計画と施設計画を説明できる．
	4thQ	9週	下水道施設	雨水排水設備などの下水道の構成を理解し，これに関する計算ができる．
		10週	下水処理の単位操作（1）	浄化槽などの生物処理(好気的処理)の基礎を理解している．
		11週	下水処理の単位操作（2）	浄化槽などの生物処理(好気的処理)の基礎的な計算ができる．
		12週	高度処理	高度処理の意義を理解している．
		13週	汚泥処理と廃棄物	汚泥処理・処分を理解する．
		14週	水道の役割	水道の役割と種類を理解し，説明できる．
		15週	水道計画	水道の計画（基本計画，給水量，水質，水圧）を理解できる．
		16週	達成度試験	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	施工特論

科目基礎情報

科目番号	0044	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：友久誠司　他　『環境・都市システム系　教科書シリーズ10　施工管理学』（コロナ社）教科書：赤木知之，他著「土質工学」コロナ社参考書：地域開発研究所　『土木施工管理技術テキスト　土木一般編』参考書：友久誠司　他		
担当教員	古本 吉倫		

到達目標

土木施工および施工管理に関する基礎知識とその応用を説明できる．土工（盛土，切土，斜面安定）に関する理論とその応用を説明できる．コンクリート工およびトンネル工に関する理論とその応用を説明できる．これらの内容を満足することで学習教育目標の（D-1）および（D2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
土木施工および施工管理	土木施工および施工管理に関する基礎知識とその応用を説明できる．	土木施工および施工管理に関する基礎知識を説明できる．	土木施工および施工管理に関する基礎知識を説明できない．
土工（盛土、切土、斜面安定）	土工（盛土、切土、斜面安定）に関する理論とその応用を説明できる．	土工（盛土、切土、斜面安定）に関する理論を説明できる．	土工（盛土，切土，斜面安定）に関する理論を説明できない．
コンクリート工およびトンネル工	コンクリート工およびトンネル工に関する理論とその応用を説明できる．	コンクリート工およびトンネル工に関する理論を説明できる．	コンクリート工およびトンネル工に関する理論を説明できない．

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2

教育方法等

概要	建設基幹材料に関する知識が必要である．特に土質工学に関する基礎的な理解が得られていることが前提となる．各回の授業をとおし，3年生までに修得した工学的知識と施工（実務）との関連性を確認していく．
授業の進め方・方法	授業は講義を中心とし，適宜，演習問題を課す．
注意点	＜成績評価＞期末試験等で学習教育目標の（D-1）および（D-2）を評価し，6割以上を獲得したものを本科目の合格者とする． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科棟3F　310教員室 ＜先修科目・後修科目＞先修科目：土質工学II

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	施工管理（1）	施工管理について説明できる．
		2週	施工管理（2）	工程管理について説明できる．
		3週	施工管理（3）	品質管理について説明できる．
		4週	施工管理（4）	原価管理について説明できる．
		5週	施工管理（5）	安全衛生管理について説明できる．
		6週	理解度の確認（施工管理）	
		7週	コンクリート工の目的	コンクリート工の目的を説明できる．
		8週	コンクリート構造物の耐久性と施工	コンクリート構造物の耐久性を施工の観点から説明できる．
	4thQ	9週	コンクリート構造物の維持管理・補強法（1）	コンクリート構造物の維持管理を説明できる．
		10週	コンクリート構造物の維持管理・補強法（2）	コンクリート構造物の補強法を説明できる．
		11週	コンクリート構造物の型枠・支保工	コンクリート構造物の型枠・支保工の安全性照査ができる．
		12週	理解度の確認（コンクリート工）	
		13週	建設機械	建設機械の種類を理解し，各種機械の概要を説明できる．
		14週	トンネル工（1）	NATMとシールド工法の違いを理解し，ロックボルト，吹付コンクリートの施工法の概要を説明できる．
		15週	トンネル工（2）	補助工法の目的と種類を説明できる．
		16週	達成度試験（建設機械・トンネル工）	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	ベクトル解析

科目基礎情報

科目番号	0046	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：高遠節夫 他 「新応用数学 改訂版」 大日本図書　／　問題集：高遠節夫 他 「新応用数学問題集 改訂版」 大日本図書		
担当教員	佐久間 敏幸		

到達目標

ベクトル解析の基本的事項と標準的な計算方法についての概要を理解できることを目標とする．授業内容を60%以上理解し計算できることで，学習・教育目標の（C-1）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
ベクトル解析に関する事項の理解	各単元において数学的な性質を理解し，応用問題を解くことができる．	各単元における基本的な計算方法を理解し，標準問題を解くことができる．	各単元における基本問題を解くことができない．

学科の到達目標項目との関係

C C-1
C1

教育方法等

概要	工学において必要になる数学の知識の習得と計算技術の習熟を図り，数学的論理を通して思考力・表現力・創造力を養い，現象を数学的に捉え，記述し，処理することにより問題を解決する能力を養う．特に，線積分，面積分に比重を置き，物理･工学との関連を考慮する．
授業の進め方・方法	授業方法は講義を中心とし，演習問題や課題を組み合わせて進める． この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える．
注意点	＜成績評価＞試験(80%)，平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し，合計の6割以上を獲得した者を合格とする．ただし平常点は授業中に行う課題演習等で評価する． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日14:30～15:00　数学科の各教員が対応します． ＜先修科目＞微分積分IIA・B ＜備考＞授業後には必ず復習を行うこと．問題を自分で解くことが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ベクトル関数　(1)空間のベクトル，外積	空間ベクトルの性質，内積と外積の図形的意味を理解し，具体的な計算ができる．
		2週	ベクトル関数　(2)ベクトル関数	ベクトル関数の極限，連続や微分について理解でき，計算ができる．
		3週	ベクトル関数　(3)曲線	空間内の曲線の単位接線ベクトルおよび曲線の長さについて，具体的な計算ができる．
		4週	ベクトル関数　(4)曲面	2変数ベクトル関数の偏微分や空間内の曲面の法線ベクトルについて理解し，計算ができる．
		5週	スカラー場とベクトル場　(1)勾配	スカラー場や勾配について理解し，具体的な計算ができ．また，典型的ないくつかの例によって物理的な意味も理解できる．
		6週	スカラー場とベクトル場　(2)発散	ベクトル場やベクトル場の発散について理解し，具体的な計算ができる．また，典型的ないくつかの例によって物理的な意味も理解できる．
		7週	スカラー場とベクトル場　(3)回転	ベクトル場の回転について理解し，具体的な計算ができ．また，典型的ないくつかの例によって物理的な意味も理解できる．
		8週	スカラー場の線積分	スカラー場の線積分の意味を理解し，具体的な計算ができる．
	4thQ	9週	ベクトル場の線積分	ベクトル場の線積分の意味を理解し，具体的な計算ができる．
		10週	グリーンの定理	グリーンの定理の証明や意味を理解できる．具体的な計算ができる．
		11週	スカラー場の面積分	スカラー場の面積分の意味を理解し,具体的な計算ができる．
		12週	ベクトル場の面積分	ベクトル場の面積分の意味を理解し，具体的な計算ができる．
		13週	ガウスの発散定理	体積分の意味を理解した上に，具体的な体積分の計算ができる． ガウスの発散定理について理解し，具体的な計算ができ．また，物理的な側面からも定理の意味を理解することができる．
		14週	ストークスの定理	線積分や面積分の意味を理解した上に，ストークスの定理について理解し，具体的な計算ができる．また，物理的な側面からも定理の意味を理解することができる．
		15週	前期未達成度試験	
		16週	まとめと総復習	半年間のまとめを行う

評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	フーリエ解析

科目基礎情報

科目番号	0047	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：高遠節夫 他「新応用数学 改訂版」大日本図書　/　問題集：高遠節夫 他「新応用数学問題集 改訂版」大日本図書		
担当教員	西信 洋和		

到達目標

フーリエ解析の基本的事項と標準的な計算方法についての概念を理解できることを目標とする．授業内容を60%以上理解し計算できることで，学習・教育目標の(C-1)の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
フーリエ解析に関する事項の理解	各単元において数学的な性質を理解し，応用問題を解くことができる．	各単元における基本的な計算方法を理解し，標準問題を解くことができる．	各単元における基本問題を解くことができない．

学科の到達目標項目との関係

C C-1
C1

教育方法等

概要	工学において必要になる数学の知識の習得と計算技能の習熟を図り，数学的論理を通して思考力・表現力・創造力を養い，現象を数学的に捉え，記述し，処理することにより問題を解決する能力を養う．さらに，数学の教養を高める．
授業の進め方・方法	授業方法は講義を中心とし，演習問題や課題を組み合わせて進める． この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える．
注意点	＜成績評価＞試験(80%)，平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し，合計の6割以上を獲得した者を合格とする．ただし平常点は授業中に行う課題演習等で評価する． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日14:30～15:00　数学科の各教員が対応します． ＜先修科目＞微分積分IIA・B ＜備考＞上記先修科目と他に微分積分Iの内容，複素数について理解し，微分と積分，基本的な複素数の計算ができることを前提とする．また，授業に対しては必ず予習，復習をし，教科書の問いや練習問題等を自分で解くことが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ラプラス変換の定義と例	ラプラス変換の定義を理解し，簡単な場合に定義に従って計算できる．
		2週	ラプラス変換の基本的性質	ラプラス変換の基本的な性質を理解し，それを利用して多くの関数のラプラス変換を求めることができる．
		3週	ラプラス変換表	ラプラス変換表を使って多くの関数のラプラス変換を求めることができる．
		4週	逆ラプラス変換	逆ラプラス変換の意味を理解し，逆ラプラス変換を求めることができる．
		5週	ラプラス変換の常微分方程式への応用	ラプラス変換，逆ラプラス変換を用いて常微分方程式を解くことができる．
		6週	たたみこみ	たたみこみの定義を理解し，簡単な積分方程式を解くことができる．
		7週	線形システムの伝達関数とデルタ関数	線形システムの伝達関数とデルタ関数の意味を理解することができる．
		8週	周期2πのフーリエ級数	周期2πの関数のフーリエ級数の定義を理解し，いくつかの例についてそれを求めることができる．
	2ndQ	9週	一般の周期関数のフーリエ級数	一般の周期関数のフーリエ級数の定義を理解し，いくつかの例についてそれを求めることができる．一般の周期関数のフーリエ級数の収束の意味を理解する．
		10週	複素フーリエ級数	複素フーリエ級数の定義を理解し，それを求めることができる．
		11週	フーリエ変換	フーリエ変換の定義を理解する．また，典型的な関数のフーリエ変換を求めることができる．
		12週	積分定理	フーリエの積分定理と反転公式を理解する．
		13週	フーリエ変換の性質と公式	フーリエ変換の性質，たたみこみに関する公式を理解する．また，典型的な関数のフーリエ変換を求めることができる．
		14週	スペクトル	フーリエ変換の応用として，線スペクトル・連続スペクトルの概念を把握する．
		15週	まとめと総復習	半年間のまとめを行う
		16週	前期末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100

配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	複素関数論

科目基礎情報

科目番号	0048	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：高遠節夫 他 「新応用数学 改訂版」 大日本図書　／　問題集：高遠節夫 他 「新応用数学問題集 改訂版」 大日本図書		
担当教員	小原 大樹,平戸 良弘		

到達目標

複素関数についての基本事項を理解し，留数を用いた積分ができることを目標とする．授業内容を60%以上理解し計算できることで，学習・教育目標の（C-1）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
複素関数論に関する事項の理解	各単元において数学的な性質を理解し，応用問題を解くことができる.	各単元における基本的な計算方法を理解し，標準問題を解くことができる.	各単元における基本問題を解くことができない.

学科の到達目標項目との関係

C C-1
C1

教育方法等

概要	複素関数についての定義や性質を理解し，考える道筋を明らかにしながら，留数を用いた積分ができることを目標とする．数学の知識を確実にするとともに計算力・思考力を養い，数学を活用する能力を伸ばす.
授業の進め方・方法	講義，問題演習，プリント教材等を組み合わせて進める. この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞試験(80%)，平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し，合計の6割以上を獲得した者を合格とする．ただし平常点は授業中に行う課題演習等で評価する. ＜オフィスアワー＞毎週水曜日14:30～15:00　数学科の各教員が対応します. ＜先修科目＞微分積分IIA・B ＜備考＞上記先修科目と他に微分積分Ｉの内容，複素数について理解し，１変数・２変数関数の微分と積分の計算ができていることを前提とする．また，授業に対しては必ず復習をし，教科書の問いや練習問題等を自分で解くことが大切である.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	複素関数	指数関数，三角関数などの簡単な複素関数の定義が理解できる.
		2週	正則関数	正則関数について理解し，簡単な関数の導関数を求めることができる.
		3週	コーシー・リーマンの関係式	コーシー・リーマンの関係式について理解し，これを用いて基本的な関数の導関数を求めることができる．また，調和関数についても理解できる.
		4週	逆関数	逆関数について理解し，基本的な関数について逆関数を求めることができる.
		5週	複素積分（１）	複素積分について理解し，簡単な関数について曲線Ｃに沿う積分が計算できる.
		6週	複素積分（２）	積分の絶対値の評価が理解でき，典型的な問題に応用することができる.
		7週	複素積分（３）	複素関数の不定積分について理解でき，積分の計算に応用できる.
		8週	コーシーの積分定理（１）	コーシーの積分定理について理解し，それを用いて標準的な積分ができる.
	4thQ	9週	コーシーの積分定理（２）	コーシーの積分定理を用いて実数を積分変数とするある種の定積分の値を求めることができる.
		10週	コーシーの積分表示	コーシーの積分表示について理解し，それを用いて標準的な積分ができる.
		11週	数列と級数	数列や級数，べき級数について理解し，それらの収束，発散について調べることができる.
		12週	関数の展開	べき級数について理解し，典型的な関数についてテイラ ー展開やローラン展開ができる.
		13週	孤立特異点と留数	孤立特異点と留数について理解し，留数の計算ができる.
		14週	留数定理	留数定理について理解し，留数定理を用いて実数を積分変数とするある種の定積分の値を求めることができる.
		15週	まとめと総復習	半年間のまとめを行う
		16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計

総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	確率統計Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0049	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	前期:2
教科書/教材	教科書：高遠節夫 他 「新確率統計 改訂版」 大日本図書 ／ 問題集：高遠節夫 他 「新確率統計問題集 改訂版」 大日本図書		
担当教員	濱口 直樹		

到達目標

確率分布および推定・検定に関する基本事項と標準的な計算方法について理解できることを目標とする.
授業内容を60%以上理解し計算できることで，学習・教育目標の（C-1）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
確率分布および推定・検定に関する事項の理解	各単元において数学的な性質を理解し，応用問題を解くことができる.	各単元における基本的な計算方法を理解し，標準問題を解くことができる.	各単元における基本問題を解くことができない.

学科の到達目標項目との関係

C C-1
C1

教育方法等

概要	確率，統計の概念の系統的な理解を通して，数学の知識の習得と技能の習熟を図るとともに，現象を数学的に捉え，記述し，処理する能力を養うことを目標とする. 授業では，確率分布および推定・検定に関する基礎的な内容を扱う.
授業の進め方・方法	講義，問題演習，提出課題等を組み合わせて授業を進める. この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞試験(80%)，平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し，合計の6割以上を獲得した者を合格とする．ただし平常点は授業中に行う課題演習等で評価する. ＜オフィスアワー＞毎週水曜日14:30～15:00　数学科の各教員が対応します. ＜先修科目・後修科目＞先修科目は確率統計I，微分積分IIA・B ＜備考＞確率統計Iの内容を理解していることを前提とする.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	連続型確率分布	確率密度関数および分布関数について理解し，確率を求めることができる.
		2週	連続型確率変数の平均と分散	連続型確率変数の平均と分散が計算できる.
		3週	正規分布	正規分布について理解し，標準化した確率変数を用いて確率を求めることができる.
		4週	二項分布と正規分布の関係	二項分布の正規分布による近似を理解し，これを用いて確率を求めることができる.
		5週	確率変数の関数	確率変数の関数について，平均と分散の性質を理解し，計算ができる.
		6週	母集団と標本，統計量と標本分布	母集団，標本，統計量および標本分布の意味を理解し，標本平均の平均と分散を求めることができる.
		7週	いろいろな確率分布	χ2乗分布，t分布について理解できる.
		8週	点推定	母数の点推定を理解し，母平均および母分散の推定値を求めることができる.
	2ndQ	9週	母平均の区間推定	母数の区間推定の意味を理解し，t 分布を用いて母平均の区間推定ができる.
		10週	母比率の区間推定	二項母集団について理解し，正規分布を用いて母比率の区間推定ができる.
		11週	仮説と検定	帰無仮説，対立仮説，p 値について理解できる.
		12週	母平均の検定	t 分布を用いて，母平均の検定ができる.
		13週	母平均の差の検定，母比率の検定	ウェルチの t 検定を用いて，母平均の差の検定ができる. 正規分布を用いて，母比率の検定ができる.
		14週	母平均の区間推定，母分散の区間推定	正規分布を用いて，母平均の区間推定ができる. χ2乗分布を用いて，母分散の区間推定ができる.
		15週	母平均の検定，母分散の検定，母平均の差の検定	Z検定を用いて，母平均の検定，および母平均の差の検定ができる. χ2乗検定を用いて，母分散の検定ができる.
		16週	前期末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用物理Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0050	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	【教科書】A：「初歩から学ぶ基礎物理学　力学II」大日本図書，B：「初歩から学ぶ基礎物理学　熱・波動」大日本図書，C：「ニューグローバル　物理＋物理基礎」東京書籍 / 【参考書】A：「基礎物理学」学術図書出版社，B：「考える力学」学術図書出版社，C：「ゼロからの熱力学と統計力学」岩波書店		
担当教員	奥村 紀浩		

到達目標

剛体の力学と熱力学の基礎的な概念を理解することが目標である。前者では，角運動量や力のモーメントを用いて，質点系および剛体の並進運動と回転運動を説明できること．後者では，温度や内部エネルギーなどの状態量，熱力学の第1法則，理想気体の状態変化と比熱について説明できること．これらの内容を満足することで，学習・教育目標の(C-1)の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
剛体の力学に関する評価項目	角運動量や力のモーメントを用いて，質点系および剛体の並進運動と回転運動を説明することができる．	角運動量や力のモーメントを用いて，質点系および剛体の並進運動と回転運動を説明することがある程度できる．	角運動量や力のモーメントを用いて，質点系および剛体の並進運動と回転運動を説明することができない．
熱力学に関する評価項目	温度や内部エネルギーなどの状態量，熱力学の第1法則，理想気体の状態変化と比熱について説明することができる．	温度や内部エネルギーなどの状態量，熱力学の第1法則，理想気体の状態変化と比熱について説明することがある程度できる．	温度や内部エネルギーなどの状態量，熱力学の第1法則，理想気体の状態変化と比熱について説明することができない．

学科の到達目標項目との関係

C C-1
C1

教育方法等

概要	（１）応用物理Iで学んだ質点の力学を発展させるとともに，角運動量を導入して，質点系（多数の質点が集まった多粒子系）と剛体（変形しない物体）の運動を扱う．（２）熱力学的な諸現象を把握するために，物体を構成する原子・分子という微視的な立場からの解釈を取り入れながら，系全体としての巨視的な物理量（とそれらの変化）の間の関係を記述する「現象論」を展開する．
授業の進め方・方法	・授業方法は，講義を中心としながら，随所に例題演習（グループワークを含む）を取り入れる．節目には小テストを行うこともある． ・毎週，復習／確認用の問題で振り返る（要提出）．適時，レポート課題を課すので，期限内に提出すること．
注意点	＜成績評価＞試験（60%），授業中の問題演習・小テストおよびレポート課題（40%）の合計100点満点で(C-1)を評価し，評価結果60点以上を合格とする． ＜オフィスアワー＞水曜日 16:00～17:00，電気電子・機械工学科棟3F 313柳沼教員室（必要に応じて来室可）． ＜先修科目・後修科目＞先修科目：物理Ｉ，物理ＩI，応用物理I ＜備考＞1～3年次の物理や化学の学習内容が身に付いていること，数学（微分・積分，微分方程式，ベクトル，ベクトル解析，行列）が操れることを前提とする．各週の授業内容を整理・復習し，自分なりの理解をもつことが大切である． なお，本科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要となる．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	運動の微分方程式の復習 （教科書A：pp. 8-39）	運動方程式を微分形式で表現し，代表的な運動（特に質量が変化する場合）に対して微分方程式を適用できる．
		2週	質点の回転運動 （教科書A：pp. 44-48）	質点の回転運動を角運動量を用いて表現し，力のモーメントとの関係を理解できる．
		3週	角運動量に対する運動方程式 （教科書A：p. 46, p. 49）	角運動量に対する運動方程式を理解し，角運動量保存の法則を説明できる．
		4週	2体系の力学 （教科書A：pp. 84-89, pp. 93-99）	2体系の重心の意味を理解し，並進運動と回転運動を運動方程式を用いて説明できる．
		5週	質点系と剛体の力学 （教科書A：pp. 104-112）	2体系の運動を拡張することで，質点系および剛体の重心の位置を計算し，並進運動と回転運動を説明できる．
		6週	剛体のつり合い （教科書A：pp. 114-115）	剛体のつり合い条件を説明できる．それらの応用問題を解くことができる．
		7週	慣性モーメント （教科書A：pp. 49-51, pp. 113-114, pp. 116-120）	剛体の慣性モーメントを理解し，平行軸の定理や直交軸の定理を説明できる．様々な剛体の慣性モーメントを計算できる．
		8週	剛体の固定軸まわりの運動 （教科書A：pp. 120-124）	剛体の固定軸まわりの運動を理解し，滑車（輪軸）や実体振り子（物理振り子）の問題を解くことができる．
	4thQ	9週	剛体の平面運動 （教科書A：pp. 120, pp. 124-125）	斜面を転がる剛体の運動を説明できる．それらの応用問題を解くことができる．
		10週	熱と温度 （教科書B：pp. 10-18）	熱と温度の違いを理解し，熱平衡や熱量保存，熱力学の第0法則を説明できる．
		11週	気体分子運動論 （教科書B：pp. 30-50）	理想気体の状態方程式を理解し，気体の温度と分子の運動エネルギーとの関係，エネルギー等分配を説明できる．

		12週	熱力学の第1法則 （教科書B：pp. 52-57）	内部エネルギーや準静的過程（可逆過程）などの概念を理解し，熱まで含めたエネルギー保存則を説明できる．
		13週	理想気体の状態変化と比熱 （教科書B：pp. 58-69）	定積変化，定圧変化，等温変化，断熱変化のp-V図を理解し，理想気体の内部エネルギー，仕事，熱量の変化を求められる．定積モル比熱および定圧モル比熱と，気体分子の自由度との関係を説明できる．
		14週	熱機関 （教科書B：pp. 70-73）	熱を仕事に変換する熱サイクルとして熱機関を理解し，熱効率を求めることができる．
		15週	熱力学の第2法則 （教科書B：pp. 74-77）	エントロピーを状態量として理解し，不可逆過程によってエントロピーが増大することを説明できる．
		16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	5	25	10	0	100
配点	60	5	25	10	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築法規

科目基礎情報

科目番号	0045	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：今村仁美 「図解　やさしい建築法規」学芸出版社 参考書：日本建築学会編「建築法規用教材」日本建築学会，「建築基準法関連法令集」建築資料研究社		
担当教員	西川 嘉雄		

到達目標

建築基準法や建築関連法規の基本事項を理解し，住宅設計に必要な法規内容を説明できること．以上の内容を総合して評価し，学習・教育目標の（D-1），（D-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
建築基準法規の理解度に関する事項	建築基準法の目的や構成の内容について，具体的な例を示しながら説明できる．	建築基準法の目的や構成の内容について，説明できる．	建築基準法の目的や構成の内容について，説明できない．
建築関連法規に関する事項	建築関係法規の各法律の目的と構成を具体的な例を示しながら説明できる．	建築関係法規の各法律の目的と構成を説明できる．	建築関係法規の各法律の構成を説明できない．
住宅設計に必要な建築法規に関する事項	住宅設計に必要な項目の目的を説明でき、建蔽率・容積率・高さ・必要壁量などを計算できる．	住宅設計に必要な建蔽率・容積率・高さ・必要壁量などを計算できる．	住宅設計に必要な項目を説明できない．

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	建築基準法を中心とする各種建築関連法規の基本的な事項を習得することを目的とする．
授業の進め方・方法	授業は講義を中心とする．講義ごとに復習問題を出すので必ず各自回答する事．
注意点	＜成績評価＞二回の定期試験の合計100点満点で（D-1）（D-2）を評価し，合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする． ＜オフィスアワー＞原則として，毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，遠藤教員室（連絡担当）にて担当教員（西川嘉雄）への連絡方法を知らせ対応する．また，非常勤講師への質問は講義時間中に行う事． ＜先修科目・後修科目＞先修科目は建築計画 ＜備考＞建物が建築法規のどの部分の規制を受けているを意識しながらか見ることで理解が深まる．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	建築基準法の基礎知識	法規の必要性を説明できる．
		2週	建築基準法に関わる手続き	確認申請などの手続きの方法が説明できる．
		3週	建物面積，高さ，階数	敷地面積・建物面積・高さ・階数が計算できる．
		4週	居室採光・換気	採光に必要な開口面積と必要換気量が説明できる．
		5週	道路の定義， 敷地と道路の関係，用途地域	建物と敷地，道路の関係、用途地域の種類が説明できる．
		6週	容積率	容積率の計算ができる．
		7週	建ぺい率	建ぺい率の計算ができる．
		8週	防火・準防火地域の建築制限	各防火地域で建築できる建築物の仕様を説明できる．
	4thQ	9週	防火の規定	耐火建築物等・防火構造等・不燃材料等について説明できる．
		10週	避難などの規定	建物別に避難に必要な条件が説明できる．
		11週	高さ制限	道路斜線の計算ができる
		12週	高さ制限	隣地斜線・北側斜線の計算ができる。
		13週	構造計算	構造計算の種類について説明できる．
		14週	構造関連の規定：木造	木造建築別の耐震・風圧に関する壁量の計算ができる．
		15週	構造関連の規定：組積他	組積造、RC造の構造的な条件が説明できる．
		16週	達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築設計製図Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0046	科目区分	専門 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：大庭孝雄他「建築設計製図」実教出版，貴志雅樹監修「建築・設計・製図　住吉の長屋・屋久島の家・東大阪の家に学ぶ」学芸出版 参考書：日本建築学会編「第4版　コンパクト建築設計資料集成」丸善		
担当教員	西川 嘉雄		

到達目標

建築設計製図に関する基本的事項を理解し，それに基づいて作図ができる．課題のRC造建築物に必要な機能を満たすような設計ができること．作成した図面・パース・模型を使ってプレゼンテーションし設計主旨を伝えることができること．以上の内容を総合して評価し学習・教育目標の（D-1）および（D-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
建築設計製図の作図方法に関する事項	建築設計製図の作図方法を理解し，課題条件を満たした作図・模型作成ができ，提出期限内に提出できる．	建築設計製図の作図方法を理解し，課題を提出期限内に提出できる．	建築設計製図の作図方法を理解しておらず，課題を提出期限に提出できない．
RC建築の設計に関する事項	課題のRC建築物に必要な機能・諸室を理解し，周囲の景観に配慮した設計ができる．	課題のRC建築物に必要な機能・諸室を理解している．	課題のRC建築物に必要な機能・諸室を理解していない．
設計主旨を相手に伝える事項	設計主旨を図面や模型を使って、相手に理解できるように説明できる．	設計主旨を図面や模型を使って説明できる．	設計主旨を図面や模型を使って説明できない．

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	RC建築物の設計を通して，建築設計の過程，製図の習得を習得する．また，自分のプランの特徴を相手に伝えることのできるプレゼンテーションの方法を習得する．企業で建築物の計画を担当していた教員が，その経験を生かしプランの計画・作図について実習形式で授業を行うものである．
授業の進め方・方法	授業は資料取集・エスキス・作図・模型作成を各自が主体になって行う．授業開始時に資料取集・エスキス・作図・模型作成の方法と注意点について解説をしたのち各自課題作成を行う．
注意点	＜成績評価＞図面と模型の完成度（100点満点）で評価する．ただし図面（RC建築物の平面図，立面図，断面図，矩計図）の重みは70%で，模型・パースの重みは30%とする．また，完成度の低いものは教員の判断により，再提出してもらう場合がある．以上の内容を総合して（D-1）及び（D-2）を評価し，合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする． ＜オフィスアワー＞原則として，毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，遠藤教員室（連絡担当）にて担当教員（西川嘉雄）への連絡方法を知らせ対応する．また，非常勤講師への質問は講義時間中に行う事． ＜先修科目・後修科目＞先修科目は建築計画，設計製図Ⅰ，建築設計製図Ⅰ ＜備考＞図学と建築設計製図の基礎知識が身に付いていること．使用者の目線に立った設計を行うことが重要である．また作図はゆっくり丁寧に書く事，図面から空間を想像できるように心がけることが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	RC建築物の設計	課題の内容を理解し必要な資料を収集することができる．
		2週	RC建築物のトレース	RC建築の平面・立面・断面図のトレースを通して，建築構造や機能を理解する．
		3週	エスキス１	設計課題の要求内容を整理し、資料収集や設計事例を参考にして設計方針をまとめる
		4週	エスキス２	設計方針を整理し，設計主旨・必要諸室・機能を検討し平面・立面プランをまとめる．
		5週	エスキスチェックと再検討	設計主旨を説明し，エスキスチェックを受ける．不十分な部分の資料等を収集する．
		6週	エスキス３	再度エスキスし最良のプランをまとめる．
		7週	平面図の作成１	意図した内容が伝わるよう平面図を作成できる
		8週	平面図の作成２	意図した内容が伝わるよう平面図を作成できる
	2ndQ	9週	立面図の作成１	立体的に建物をとらえ立面図を作図できる．
		10週	立面図の作成２	立体的に建物をとらえ立面図を作図できる．
		11週	断面図の作成	適切な位置の断面図を作図できる．
		12週	矩計図の作成	木造住宅の構造を理解し矩計図を作図できる．
		13週	模型作成	設計図をもとに模型を作成することができる．
		14週	模型作成	設計図をもとに模型を作成することができる．
		15週	プレゼン・合同講評会	作成した図面と模型を使って設計主旨や建物の特徴を相手に伝えることができる．
		16週		

評価割合						
	課題：図面	課題：模型	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	100
配点	70	30	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築環境

科目基礎情報

科目番号	0047	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：今村仁美 「図解　やさしい建築環境」学芸出版社 参考書：田中俊六他「最新 建築環境工学」井上書院，田中俊六他「建築環境工学[演習編]」井上書院		
担当教員	西川 嘉雄		

到達目標

建築環境工学に関し，温熱，日照，空気，音，光の基本事項が説明でき，建築物の計画・設計に有効な各物理的諸量の算出ができること．以上の内容を総合して評価し, 学習･教育目標の（D-1），（D-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
温熱・日照に関する事項	温熱・日照の基礎事項と室内の最適条件を理解し，与えられた条件の計算をして，室内環境の良否を判定できる.	温熱・日照の基礎事項と室内の最適条件を理解し，与えられた条件の計算できる.	温熱・日照の基礎事項と室内の最適条件を理解できていない.
空気環境に関する事項	空気環境の基礎事項と室内の最適条件を理解し，与えられた条件の計算をして，室内環境の良否を判定できる.	空気環境の基礎事項と室内の最適条件を理解し，与えられた条件の計算できる.	空気環境の基礎事項と室内の最適条件を理解できていない.
音環境に関する事項	音環境の基礎事項と室内の最適条件を理解し，与えられた条件の計算をして，室内環境の良否を判定できる.	音環境の基礎事項と室内の最適条件を理解し，与えられた条件の計算できる.	音環境の基礎事項と室内の最適条件を理解できていない.
光環境に関する事項	光環境の基礎事項と室内の最適条件を理解し，与えられた条件の計算をして，室内環境の良否を判定できる.	光環境の基礎事項と室内の最適条件を理解し，与えられた条件の計算できる.	光環境の基礎事項と室内の最適条件を理解できていない.

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	快適な建築環境及び居住空間を創造する上で必要な温熱環境， 空気環境， 音環境， 光環境に関する基礎知識を習得する．具体的な設計に生かせる計算方法を理解し，快適性や省エネルギーに対する検討を行える能力を身につける.
授業の進め方・方法	・授業は講義を中心とする．復習問題を出すので，必ず各自取り組むこと. ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞二回の定期試験の100点満点で（D-1）及び（D-2）を評価し，合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする. ＜オフィスアワー＞原則として，毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，遠藤教員室（連絡担当）にて担当教員（西川嘉雄）への連絡方法を知らせ対応する．また，非常勤講師への質問は講義時間中に行う事. ＜先修科目・後修科目＞先修科目は建築計画 ＜備考＞建築環境では， 物理の基礎的知識が必要.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築史

科目基礎情報

科目番号	0048	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：西田・矢ケ崎編「カラー版　図説 建築の歴史―西洋・日本・近代―」学芸出版社 参考書：日本建築学会編「西洋建築史図集」彰国社，日本建築学会編「日本建築史図集」彰国社		
担当教員	西川 嘉雄		

到達目標

西洋の建築と日本の建築を建築に即して習得し説明できること. それぞれの時代によって、建築構造や建築材料やデザインが異なる点を理解し説明できること. 基本的な建築用語を建築形態に即して修得し, これらについて歴史的な流れに沿って説明できること. 以上の内容を満足することで, 学習・教育目標の（D-1），（D-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
西洋の建築史に関する事項	西洋の建築史の時代ごとの建築構造・材料・デザインについて説明でき，それぞれの特徴を図示できること.	西洋の建築史の時代ごとの建築構造・材料・デザインについて説明できること.	西洋の建築史の時代ごとの建築構造・材料・デザインについて説明できない.
日本の建築史に関する事項	日本の建築史の時代ごとの建築構造・材料・デザインについて説明でき，それぞれの特徴を図示できること.	日本の建築史の時代ごとの建築構造・材料・デザインについて説明できること.	日本の建築史の時代ごとの建築構造・材料・デザインについて説明できない.
建築史の応用に関する事項	建築史で用いられる建築用語を建築形態および歴史的な流れに沿って説明でき，具体的に図示できること.	建築史で用いられる建築用語を建築形態および歴史的な流れに沿って説明できること.	建築史で用いられる建築用語を説明できない.

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	建築の歴史の基本的な事項を具体的な建築遺構に即して修得することを目的とする. 西洋建築の古代から現代まで、日本建築の古代から近代までを扱う。古典建築と近代建築との差異を西洋と日本に即して把握していくことが本授業の概要である.
授業の進め方・方法	・授業は講義を中心とする．要点や建物の絵をかきながら理解を深める. ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞二回の定期試験の100点満点で（D-1）（D-2）を評価し，合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする. ＜オフィスアワー＞原則として，毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，遠藤教員室（連絡担当）にて担当教員（西川嘉雄）への連絡方法を知らせ対応する．また，非常勤講師への質問は講義時間中に行う事. ＜先修科目・後修科目＞先修科目は建築計画 ＜備考＞様々な建物を積極的に見て，その造形美や建築の由来により建築史との結びつきを常に意識することが大切です.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	全体概要・建築の発生と発達	西洋・日本の建築史の概要と地域の特色の違いを説明できる.
		2週	古代：ギリシャ・ローマ	キリシャ・ローマ建築の特長が説明できる.
		3週	中世１：ビサンチン・ロマネスク	宗教建築の空間の特色を説明できる.
		4週	中世２：ゴシック	尖りアーチ・フライングバットレスなどの要素と建築空間の特徴を説明できる.
		5週	近世１：ルネサンス	パラディオの建築が説明できる.
		6週	近世２：バロック・ロココ	劇的な効果を狙う手法について説明できる.
		7週	近世３：新古典主義	ネオクラシズムに発展した経緯を説明できる.
		8週	日本の古代１：神社建築	式年遷宮が説明できる.
	2ndQ	9週	日本の古代２：仏事建築	法隆寺の境内と金堂が説明できる.
		10週	日本の古代３：都と住宅	都の構成が説明でる。
		11週	日本中世１：中世和様	霊山寺本堂などが説明できる.
		12週	日本中世２：大仏様・禅宗様	浄土寺浄土堂と円覚寺舎利殿などが説明できる.
		13週	日本近世：書院・数奇屋・茶室	書院造り桂離宮の諸相が説明できる.
		14週	近代建築	スチールの時代で建築がどのように変化したか説明できる.
		15週	日本の近代建築	辰野金吾の建築が説明できる.
		16週	達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100

配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語プレゼンテーション基礎

科目基礎情報

科目番号	0049	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	配布テキスト		
担当教員	ケント		

到達目標

技術者に必要な科学・技術に関する英語での表現を磨き，テーマについて口頭発表できる能力を身に付けることによって，学習教育目標（F-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
プレゼンテーション技術の理解	プレゼンテーションの技術を理解でき，自分の決めたテーマでプレゼンテーションの資料を作成できる	プレゼンテーションの技術を理解でき，プレゼンテーションの準備ができる	プレゼンテーションの技術を理解できない
プレゼンテーション	プレゼンテーションおよび質疑応答ができる	プレゼンテーションができる	プレゼンテーションと質疑応答ができない

学科の到達目標項目との関係

F F-2
F2

教育方法等

概要	技術者に必要な科学・技術に関する英語での表現を磨き，テーマについて口頭発表できるようになることを目指す.
授業の進め方・方法	英語で資料を作成し，プレゼンテーションの演習を行う. この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞プレゼンテーション（40%），ライティング（50%），課題（10%）の合計100点満点で評価し，60%以上の達成度で合格とする. ＜オフィスアワー＞月曜日　15:00～16:00

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Introduction & Speech writing	Students will know what is a good speech & How to organize speech writing
		2週	Speech writing & Format	Students will know to write and format a speech
		3週	Speech writing	Students will know how to write a speech and how to format a presentation
		4週	Physical Message	Students will know how to use body language
		5週	Vocal Message	Students will know how to use voice effectively
		6週	Vocal Message 2	Students will know how to use voice more effectively
		7週	Visual aids	Students will know how to write a speech and how to create and use visual aids
		8週	Finished speech CHECK & practice	Practice reading the final speech
	2ndQ	9週	Speech practice 1	Presentation practice
		10週	Speech practice 2	Presentation practice
		11週	Speech practice 3	Presentation practice
		12週	Speech practice 4	Presentation practice
		13週	Speech practice 5	Presentation practice
		14週	Final Presentation	Perform Final Presentation
		15週	Final Presentation and Feedback	Perform Final Presentation and receive feedback
		16週		

評価割合

	プレゼンテーション	ライティング	課題	その他	合計
総合評価割合	40	50	10	0	100
配点	40	50	10	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	都市計画

科目基礎情報

科目番号	0050	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：森田・柳澤・轟ら『図説わかる都市計画』，学芸出版 参考書：川上光彦『都市計画』，森北出版/竹内伝史ほか『交通工学』，鹿島出版		
担当教員	柳澤 吉保 ,轟 直希		

到達目標

・都市計画のフレームが説明できる.
・地域地区制，都市交通計画，土地区画整理事業，都市再開発事業の必要性と定義を説明できる.
これらの内容を満足することで,学習・教育目標の（D-1）及び（D-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
都市計画の枠組み・近代都市計画・都市計画の流れ	都市計画の経緯、意義、目的について具体的事例を挙げて説明できる。	都市計画の経緯、意義、目的について説明できる。	都市計画の経緯、意義、目的について説明できない。
土地利用計画・都市施設計画	土地利用計画および都市施設計画について具体的事例を挙げて説明できる。	土地利用計画および都市施設計画について説明できる。	土地利用計画および都市施設計画について説明できない。
都市開発の事業化	都市開発事業について具体的事例を挙げて説明できる。	都市開発事業について説明できる。	都市開発事業について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2

教育方法等

概要	都市計画の意義・必要性，歴史，プロセスとフレームワークを把握する．また都市計画を構成する土地利用，都市施設計画，市街地開発事業など，都市計画事業に必要な専門用語，行政の仕組みと技術的手法についての基礎的な知識を身につける.
授業の進め方・方法	・テキストを中心に適宜，都市計画に関する資料を用いる. ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞２回の定期試験の合計100点満点で（D-1）及び（D-2）を評価し,合計の６割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする．各定期試験の重みは同じとする. ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科3F，轟教員室. ＜先修・後修科目＞先修科目は計画数理学.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	都市計画の概要	都市計画の目的と対象を説明できる.
		2週	近代イギリスの都市計画の歴史	ハワードの田園都市論の内容を説明できる.
		3週	近代アメリカの都市計画の歴史	具体的な建築物の例を挙げながら近隣住区論，衛星都市の内容を説明できる.
		4週	都市計画のプロセス	住宅基盤の整備など都市計画事業化までのプロセスを説明できる.
		5週	土地利用計画	土地利用計画の考え方と制度について説明できる.
		6週	都市計画区域	都市計画区域の区域区分と用途地域について説明できる.
		7週	用途地域と建築規制	用途地域の意義と建築の規制について説明できる.
		8週	都市施設	都市計画法による都市施設と都市計画決定プロセスを説明できる.
	2ndQ	9週	市街地開発・再開発事業	減歩，換地による住宅地区の計画について説明ができる．市街地高度利用による新住宅市街地開発の技法を説明できる.
		10週	地区計画	地区計画の考え方や手続きを説明できる.
		11週	都市交通計画	交通計画の立案プロセスや交通需要推計手法を説明できる.
		12週	都市交通施設計画１	道路の機能分類や都市道路の種類について説明できる.
		13週	都市交通施設計画２	宅地計画におけるラドバーン・システムの概念と歩者分離・歩者共存の考え方を説明できる.
		14週	公園緑地・景観計画	公園緑地の効果や計画・設計フローを説明できる．グリーンインフラの意義を説明できる.
		15週	防災都市計画	都市防災の考え方や都市防災計画について説明できる.
		16週	前期末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計

総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	交通工学

科目基礎情報

科目番号	0051	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：大橋・柳澤『交通システム工学』，コロナ社/参考書：川上光彦『都市計画』，森北出版株式会社		
担当教員	柳澤 吉保		

到達目標

・交通計測および交通需要推計の役割を理解し説明できること.
・速度，交通量，交通密度の関係を理解し説明できること.
・交通容量の算定方法が説明できること.
これらの内容を満足することで,学習・教育目標の（D-1）及び（D-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
交通調査・交通計画	交通調査および交通需要推計を説明できる。	交通需要推計を説明できる。	交通調査および交通需要推計を説明できない。
交通工学・交通現象	交通速度と交通量の関係を説明でき、計算できる。	交通速度と交通量の関係を説明できる。	交通速度と交通量の関係を説明も計算もできない。
交通工学・交通容量	交通容量の説明と計算ができる。	交通容量の計算ができる。	交通容量の説明も計算もできない。

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1 D2

教育方法等

概要	交通計画の必要性，交通計画のプロセス，交通の調査方法と交通需要の推定方法を理解し，交通計画を立案する上で必要な概念と基礎理論を得る．交通量・交通速度と交通施設容量を学習し，交通施設計画・設計に必要な技術的基礎力を身につける.
授業の進め方・方法	・テキストを中心に適宜，交通工学に関する資料を用いる. ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞２回の定期試験（80%）および４段階推計法の理解度テスト(20%)の合計100点満点で（D-1）及び（D-2）を評価し，合計の６割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする．各定期試験の重みは同じとする. ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，柳澤教員室. ＜先修・後修科目＞先修科目は計画数理学.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	交通計測	交通計画の必要性と，計画立案までの一般的な流れを理解し，説明ができる.
		2週	交通計測の対象地域	ゾーニングを説明できる.
		3週	交通の集計	トリップの集計方法を理解し，集計計算ができる.
		4週	生成・発生集中交通量の推計	生成原単位を理解し生成交通量の推計ができ，原単位法と関数モデル法を理解し説明ができる.
		5週	発生集中交通量の推計計算	発生集中交通量の推計計算ができる.
		6週	現在パターン法による分布交通量の推計モデル	現在パターン法を理解し，説明ができる.
		7週	重力モデルによる分布交通量の推計モデル	重力モデル法の特徴を理解し説明ができる.
		8週	重力モデルによる分布交通量の推計計算	重力モデル法による分布交通量の推計計算ができる.
	2ndQ	9週	手段別交通量の推計モデルと推計計算	選択率曲線法と関数モデル法の特徴を理解し，手段選択交通量の推計計算ができる.
		10週	配分交通量の原則と配分交通量の計算	配分原則を理解し，分割配分法によって交通量の配分計算ができる.
		11週	交通量(Q)・速度(V)・密度(K)の関係	交通量(Q)・速度(V)・密度(K)の関係を導ける.
		12週	交通量(Q)・速度(V)・密度(K)の関係	交通量(Q)・速度(V)・密度(K)を算定できる.
		13週	K－V曲線，Q－V曲線，オキュパンシ	K－V曲線，Q－V曲線，オキュパンシの定義を説明できる.
		14週	単路部交通容量の算定 サービスレベルの設定	道路交通条件に基づく単路部の補正係数の算定ができる. サービスレベル設定が説明できる.
		15週	信号交差点容量の補正計算 信号交差点の交通容量算定	道路交通条件に基づく補正係数の算定ができる. 信号交差点の交通容量の算定ができる.
		16週	到達度試験	到達度試験

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	100
配点	80	20	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建設環境衛生学II

科目基礎情報

科目番号	0052	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	津野洋 他，テキストシリーズ土木工学7 環境衛生工学，共立出版		
担当教員	浅野 憲哉		

到達目標

建築・土木分野と関連の深い環境衛生工学を対象とし，水域や建築物に関する環境問題を理解するとともに，環境保全のための解決法の検討ができること．特に，衛生工学に対しては建築物も含めた上水道および下水道の社会的な役割としくみを，廃棄物と化学物質に対しては，環境に与える影響と適切な対策方法を説明できること．
これらの内容を満足することで，学習・教育目標のD-1およびD-2の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
上水道の施設と浄水プロセス	上水道の施設と浄水プロセスについて理解し、詳細な説明ができる。	上水道の施設と浄水プロセスについてある程度理解し、一般的な説明ができる。	上水道の施設と浄水プロセスについて理解しておらず説明できない。
衛生工学における給水と排水	衛生工学における給水と排水について理解し、詳細な説明ができる。	衛生工学における給水と排水についてある程度理解し、一般的な説明ができる。	衛生工学における給水と排水について理解しておらず説明できない。
衛生工学における廃棄物	衛生工学における廃棄物について理解し、詳細な説明ができる。	衛生工学における廃棄物についてある程度理解し、一般的な説明ができる。	衛生工学における廃棄物について理解できておらず説明できない。

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1 D2

教育方法等

概要	衛生分野の技術者に広く求められる建設分野の環境科学全体について学習し，知識を身につける．環境中の採水から建築物での上水道利用や、建築物での排水の発生から下水道の汚水処理に至る衛生工学を学び，水質汚染，廃棄物処理や施設内における化学物質のリスクを学習する．
授業の進め方・方法	・授業方法は講義を中心とし，演習問題や課題をだす． ・適宜，レポート課題を課すので，期限に遅れず提出すること．
注意点	＜成績評価＞ ・２回の到達度試験で評価する．ただし，各定期試験の重みは同じとする． 合計100点満点でD-1およびD-2を評価し，合計の６割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする． ＜オフィスアワー＞ ・放課後16:00～17:00，矢口研究室および浅野教員室．この時間にとらわれずに必要に応じて来室してください．また，会議などで不在の場合があります． ＜先修科目・後修科目＞ ・先修科目は、水理学Ⅱ, 建築計画 ＜備考＞ ・化学および環境問題全般に関する知識が必要となる．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	浄水の単位操作	水道の単位操作（凝集，沈殿，濾過，殺菌）を理解できる．
		2週	総論	環境保全に対する環境衛生工学及び建築設備工学の関与を理解する．
		3週	土木・建築分野の衛生工学	土木・建築分野での衛生工学の位置づけを理解し，説明できる．
		4週	建築構造物と水道施設	水道施設（取水，導水，浄水，送水，配水，給水）を理解できる．
		5週	建築物の給水設備（1）	建築物の給水設備の概要を理解し，説明できる．
		6週	建築物の給水設備（2）	建築物の給水装置の概要を理解し，説明できる．
		7週	建築物の給湯設備	建築物の給湯設備の概要を理解し，説明できる．
		8週	建築物における排水・通気（1）	建築物の排水設備を理解し，目的に応じ適切な設備を選択できる．
	2ndQ	9週	建築物における排水・通気（2）	建築物の通気設備を理解し，目的に応じ適切な設備を選択できる．
		10週	建設分野の廃棄物と環境保全	建設系廃棄物と環境保全の重要性を理解し，衛生工学の役割を説明できる．
		11週	建築物の化学物質の使用と施設内環境への影響	化学物質が建築物や施設内環境に与える影響を理解する．
		12週	化学物質の建築物や環境への使用に関する法規制	化学物質の建築物と環境に関する法規制の概要を理解する．
		13週	化学物質と施設内環境の関わり	化学物質と環境の関わりを，施設内における健康被害を例に理解する．
		14週	廃棄物の定義と分類	廃棄物の定義と法律的分類を理解する．

		15週	資源再生・リサイクル	資源循環社会に向けた資源再生・リサイクル技術の現状を理解し，説明できる.
		16週	達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	実験実習Ⅳ

科目基礎情報

科目番号	0053	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材	教科書：土木学会編　『土木材料実験指導書（基礎編）』（土木学会）　土木学会編　『構造実験の手引き［2009年版］』（土木学会）　高専土質実験教育研究会編　『新土質実験法』（鹿島出版会）		
担当教員	古本 吉倫,松下 英次,浅野 憲哉,奥山 雄介,大原 涼平		

到達目標

地盤工学実験に関しては，地盤の性質を定量的に評価する実験を理解し説明できる．衛生実験に関しては，一般水質項目の理解と，それらを定量的に評価する実験を理解し説明できる．構造実験に関しては座学で学んだ現象を実際に再現・検証する実験を理解し説明できる．これらの内容を満足することで学習教育目標の（D-1）および（D-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
地盤の性質に関する理解	地盤の性質を定量的に評価する実験を理解し，応用することができる．	地盤の性質を定量的に評価する実験を理解し説明できる．	地盤の性質を定量的に評価する実験を理解していない．
一般的水質項目に関する理解	一般水質項目の理解と，それらを定量的に評価する実験を理解し，応用することができる．	一般水質項目の理解と，それらを定量的に評価する実験を理解し説明できる．	一般水質項目と，それらを定量的に評価する実験を理解していない．
構造の現象に関する理解	構造に関して学んだ現象を実際に再現・検証する実験を理解し，応用することができる．	構造に関して学んだ現象を実際に再現・検証する実験を理解し説明できる．	構造に関して学んだ現象を実際に再現・検証する実験を理解していない．

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	実験を通じて講義内容の理解を深めるとともに，実験や観測で得られた結果の整理や考察に必要な素養を養う．本科目では企業で地盤の調査や試験を担当した教員がその経験を活かし，地盤の調査や試験について実習形式で授業を行うものである．
授業の進め方・方法	レポート課題を課すので，期限に遅れずに提出すること．
注意点	＜成績評価＞ 地盤工学実験，衛生実験および構造実験において出題されたレポート課題の平均を100点満点で学習教育目標の（D-1）および（D-2）を評価する．合格者の成績は6割以上とし，さらに，地盤工学実験，衛生実験および構造実験のそれぞれにおいて6割以上の評価を得たものを本科目の合格者とする．レポートの平均点が6割以上であっても，地盤工学実験，衛生実験および構造実験のいずれかが6割未満であった場合には不合格とする． ＜オフィスアワー＞ 毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科棟3F　担当教員室 ＜先修科目・後修科目＞ 後修科目：実験実習III ＜備考＞

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	地盤工学実験：土の三軸試験	土の三軸圧縮試験の目的，内容，試験機の操作が理解でき，実験結果の判定および考察ができる．
		2週	地盤工学実験：設計CBR試験	設計CBR試験の目的，内容が理解できる．
		3週	地盤工学実験：浸透流の可視化試験	浸透流の可視化試験の目的，内容が理解できる．
		4週	地盤工学実験：スウェーデン式サウンディング試験	スウェーデン式サウンディング試験の目的，内容が理解できる．
		5週	地盤工学実験：データ解析	地盤工学実験のデータを取りまとめ報告することができる．
		6週	構造実験：はりのたわみ測定による弾性理論の検証	はりのたわみの測定方法が修得でき，弾性理論の正しさが検証できる．
		7週	構造実験：構造用鋼材の引張試験によるひずみの測定	試験機の操作方法を習得でき，平鋼の応力-ひずみ曲線および鋼材の緒性能が理解できる．
		8週	構造実験：はりの支点反力と曲げモーメントの影響線	はりの支点反力の測定方法が修得でき，曲げモーメントの影響線が理解できる．
	2ndQ	9週	構造実験：鉄筋の引張試験による応力-ひずみ関係	鉄筋を判断するまで試験を行い，特徴的な鋼材の塑性などの応力-ひずみ曲線の緒性能が理解できる．
		10週	構造実験：データ解析	構造実験のデータを取りまとめ報告することができる．
		11週	衛生実験：一般水質分析	pH，SSなどの一般水質分析の目的，内容を理解できる．
		12週	衛生実験：溶存酸素分析	滴定法により溶存酸素分析を行い，特徴，目的および内容を理解できる．
		13週	衛生実験：BOD（生物化学的酸素要求量）分析	BODの分析方法，目的および内容を理解でき，有機物の生物分解性を考察できる．
		14週	衛生実験：COD（化学的酸素要求量）分析	CODの分析を行い，分析方法の目的および内容が理解できる．

		15週	衛生実験：データ解析	衛生実験のデータを取りまとめ報告することができる.
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	100
配点	0	0	0	100	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	設計製図Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0054	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	教科書：宮本裕　他　『橋梁工学第3版』（技報堂出版）参考書：日本橋梁建設協会　『合成桁の設計例と解説』 Jiro Shimizu　他　『Jw_CAD７徹底解説　操作編』（ムック）		
担当教員	奥山 雄介		

到達目標

鋼道路橋の設計を通して鋼構造物の設計ができることで学習教育目標の（E-2）の達成とする．また，CADの基礎的技術を習得し，設計図を描けることで学習教育目標の（C-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
活荷重合成桁の設計方法	活荷重合成桁の設計方法を理解し，設計計算を応用しながら，設計書を作成することができる．	活荷重合成桁の設計方法を理解し，設計計算書を作成することができる．	活荷重合成桁の設計方法を理解していない．
図面作成	計算内容を理解し，正確に図面を作成することができる．	計算内容を理解し，図面を作成することができる．	計算内容を理解しておらず，図面が作成できない．
CAD	CADの使用方法を理解し，正確に図面を作成することができる．	CADの使用方法を理解し，図面を作成することができる．	CADの使用方法を理解しておらず，図面を作成できない．

学科の到達目標項目との関係

C C-2 E E-2
C2 E2

教育方法等

概要	前期は，鋼道路橋の上部工の設計を通して鋼構造物の設計計算を学び，その設計図を作成する．後期は，CADの基礎的技術を習得し，設計図作成を学ぶ．
授業の進め方・方法	講義は，実習形式で行い，各自与えられた条件での設計計算を行う．適宜，課題を課すので期限に遅れずに提出すること．
注意点	＜成績評価＞　設計計算書（50%）と図面（50%）で学習教育目標の(C-2)，(E-2)を評価する．6割以上を獲得したものを本科目の合格者とする．ただし，計算書，図面のいずれかで6割未満だったものは不合格とする． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科棟3F　310教員室 ＜先修科目・後修科目＞先修科目：設計製図II ＜備考＞4年生で学んだ鋼構造学，設計製図II，情報処理の基本知識の上に積み重ねていくため，しっかりと理解しておく必要がある．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	床板の設計(1)　～耐久性能の照査～	活荷重合成桁における床版の設計ができる．
		2週	床板の設計(2)　～耐荷性能の照査～	活荷重合成桁における床版の設計ができる．
		3週	主桁の設計(1)　～荷重強度の計算～	主桁に作用する荷重強度を求めることができる．
		4週	主桁の設計(2)　～断面力の計算～	主桁に作用する断面力を計算できる．
		5週	主桁の設計(3)　～断面諸元の決定①～	主桁の断面寸法を決定できる．
		6週	主桁の設計(4)　～断面諸元の決定②～	主桁の断面寸法を決定できる．
		7週	主桁の設計(5)　～応力度の算出①～	部材に生じる応力度を計算できる．
		8週	主桁の設計(6)　～応力度の算出②～	部材に生じる応力度を計算できる．
	2ndQ	9週	主桁の設計(7)　～制限値の算出～	部材の制限値を計算できる．
		10週	主桁の設計(8)　～安全性の照査～	主桁の安全性を照査できる．
		11週	部材連結部の設計(1)　～上フランジの連結～	上フランジ連結部の設計計算ができる．
		12週	部材連結部の設計(2)　～下フランジの連結～	下フランジ連結部の設計計算ができる．
		13週	部材連結部の設計(3)　～ウェブの連結～	ウェブ連結部の設計計算ができる．
		14週	補剛材の設計(1)　～支点上垂直補剛材～	支点上垂直補剛材の設計計算ができる．
		15週	補剛材の設計(2)　～垂直補剛材～	垂直補剛材の設計計算ができる．
		16週	補剛材の設計(3)　～水平補剛材～	水平補剛材の設計計算ができる．
後期	3rdQ	1週	CADの基本概念と機能	CADの基本概念，機能，操作方法を理解できる．
		2週	CADの基本図形の作図と編集	基本図形の編集・作図ができる．
		3週	CADの基本機能と図面管理	基本機能を習得し，図面管理ができる．
		4週	CADによる主桁の上面図	主桁の上面図が描ける．
		5週	CADによる主桁の側面図	主桁の側面図が描ける．
		6週	CADによる主桁の正面図	主桁の正面図が描ける．
		7週	CADによる各種寸法記入	各種寸法などが記入できる．
		8週	CADの図のレイアウトの調整および印刷	図のレイアウト調整および印刷ができる．
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	100	0	100
配点	0	0	0	100	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	耐震工学

科目基礎情報

科目番号	0055	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：平井一男・水田洋司「耐震工学入門」，森北出版		
担当教員	古本 吉倫		

到達目標

自由振動と強制振動について，１自由度系の性質を理解することが大切である．それをもとにして，２自由度系の方程式の扱いを理解する．モードの直交性を理解し，これを利用して多自由度系の自由振動と強制振動の扱いを理解する．これらの内容を理解することで，学習・教育目標の（D-1）および（D-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
自由振動と強制振	１自由度系の自由振動と強制振動について、それに関わる問題の導出課程を説明し、かつ解くことが出来る。	自由振動と強制振動について、１自由度系の性質を理解している。	自由振動と強制振動について、１自由度系の性質を理解していない。
２自由度系および多自由度系	２自由度系以上の多自由度系自由振動と強制振動について、それに関わる問題の導出課程を説明し、かつ解くことが出来る。	２自由度系および多自由度系の方程式の扱いを理解し、モードの直交性を理解している。	２自由度系および多自由度系の方程式の扱いを理解していない。

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1 D2

教育方法等

概要	構造物の耐震設計に必要な基礎知識を学ぶ．構造物の振動について，１自由度系から多自由度系の解析に必要な振動理論と耐震設計への応用について学ぶ．本科目は，企業で耐震設計を担当していた教員が，その経験を活かし，構造物の耐震設計に必要な理論と応用について講義形式で授業を行うものである．
授業の進め方・方法	・授業方法は講義を中心とし，演習問題や課題をだす． ・適宜，レポート課題を課すので，期限に遅れず提出すること． ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える．
注意点	＜成績評価＞前期中間試験（50%）と前期末試験（50%）を100点満点で評価し，60点以上をもって（D-1）および（D-2）の達成とする． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00 ～ 17:00，環境都市工学科棟3F 第1教員室．この時間にとらわれず必要に応じて来室可． ＜先修科目・後修科目＞先修科目は構造力学III．後修科目はなし． ＜備考＞構造力学，微分方程式などの基本をしっかり身に付けておくことが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	波動解析概論	・自由振動，強制振動について説明できる．
		2週	減衰のない自由振動	・減衰のない１自由度系の自由振動について方程式を立て，微分方程式を解くことができる．
		3週	固有振動数	・固有振動数について説明できる．
		4週	エネルギー法、レイリー法	・エネルギー法とレイリー法について説明できる．
		5週	減衰を伴う自由振動	・減衰自由振動の方程式を立てることができる．
		6週	減衰自由振動の解析	・減衰自由振動の方程式を解くことができる．
		7週	周期的外力による強制振動	・周期的外力による応答を求め，共振曲線について説明できる．
		8週	非周期的外力による応答	・起振機実験について説明できる． ・非周期低外力の応答について説明できる．
	2ndQ	9週	２自由度系振動体の自由振動	・２自由度系の方程式をたてることができる．
		10週	連立微分方程式	・２自由度系の方程式を解くことができる．
		11週	固有振動数と固有振動モード	・固有振動数と固有振動モードを求めることができる． ・モードの直交性を説明できる．
		12週	逐次近似法による強制振動の解析	・多自由度系の逐次近似解析を理解できる．
		13週	動的応答の数値解析	・数値積分法を説明できる．
		14週	震度法よる耐震設計(1)	・震度法を説明できる
		15週	震度法よる耐震設計(2)	・震度法を説明できる
		16週	達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	卒業研究

科目基礎情報

科目番号	0056	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 8
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	8
教科書/教材	研究に関連する分野の論文，著書，ウェッブ等.		
担当教員	柳澤 吉保 ,遠藤 典男,古本 吉倫,西川 嘉雄,松下 英次,浅野 憲哉,酒井 美月,轟 直希 ,奥山 雄介,大原 涼平		

到達目標

卒業論文において，研究に関連する専門分野の情報を収集し，内容を理解し説明することにより(E-1)の達成とする．卒業論文において専門分野の知識，理論を活用し，課題の解決方法を提案することにより(E-2)の達成とする．図表を用いて研究成果を効果的にプレゼンテーションすることができ，質疑応答ができることで(F-1)の達成とする．卒業論文において，研究を遂行するうえで必要な知識，理論を自主的に収集し，理解し，修得することができることにより(G-1)の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
研究背景や工学的意味に関する理解	自主的に研究テーマの背景や周辺知識、工学的意味をまとめ、説明できる。	担当教員指導の下で、研究テーマの背景や工学的意味を説明できる。	担当教員指導の下で、研究テーマの背景や工学的意味を説明できない。
研究計画や実験・解析方法に関する理解	自主的に研究テーマを推進するための計画や実験・解析方法などを検討できる。	担当教員の指導の下で、研究テーマを推進するための計画や実験・解析方法などの検討ができる。	担当教員の指導に従わず、研究テーマを推進できない。
成果のまとめ方に関する理解	自主的に技術的成果を正確な日本語で論理的な文書にまとめ、的確にプレゼンテーションすることができる。	担当教員指導のもとで、技術的成果を論理的な文書にまとめ、プレゼンテーションすることができる。	技術的成果を論理的な文書にまとめ、プレゼンテーションすることができない。

学科の到達目標項目との関係

E E-1 E E-2 F F-1 G G-1
E1 E2 F1 G1

教育方法等

概要	建設に関連するテーマについて研究を行い，基礎理論・応用理論を用いた実験，調査，解析，分析等を通じて研究遂行の手法と結果に対する考察の方法を体得する．研究成果を論文として提出し，卒業研究発表会での発表を通じて，研究成果のまとめ方とプレゼンテーションの方法を体得する.
授業の進め方・方法	・年度当初に設定したテーマに基づいて研究遂行計画を立て，指導教員の指導を受けながらも自主的かつ積極的に取り組むことが重要である. ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞ ・卒業論文において，１）研究に関連する分野情報収集と理解度により(E-1)を評価する(30%)．２）専門分野の知識，理論を活用し，課題の解決方法を提案することにより(E-2)を評価する(10%)．中間報告書と卒業論文において，研究を遂行するうえで必要な知識，理論を自主的に収集し，理解し，修得することにより(G-1)を評価する(30%)．卒業研究の報告時およびプレゼンテーションにおいて，図表を用いて研究成果を効果的に表現でき，質疑応答ができることで(F-1)を評価する(30%)．本科目の成績は，以上の合計100点満点により評価し，(E-1)，(E-2)，(F-1)，(G-1)の全て学習・教育目標に対して6割以上の評価を得たものを卒業研究の合格者とする．なお，いずれか1つの学習・教育目標でも6割未満の評価となったものに対しては，卒業研究の成績を59点以下とする. ＜オフィスアワー＞ ・原則として，月～金，16：00～17：00，環境都市工学科，担当教員室にて対応．ただし，会議などで不在の場合があります. ＜先修科目・後修科目＞ ・ ＜備考＞ ・4学年末にクラス担任が各教員の研究内容を学生に紹介し，配属希望調査を行う．年度当初に設定したテーマに基づいて研究遂行計画を立て，指導教員の指導を受けながらも自主的かつ積極的に取り組むことが重要である.

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	卒業研究ガイダンス	卒業研究の概要を理解し，配属された研究室における各個人の役割，年間の日程を把握できる.
		2週	卒業研究テーマの検討と計画書提出（1）	課された研究の概要を理解し，説明できる.
		3週	卒業研究テーマの検討と計画書提出（2）	課された研究の概要を理解し，説明できる.
		4週	卒業研究テーマの検討と計画書提出（3）	課された研究の概要を理解し，説明できる.
		5週	研究の遂行（1）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		6週	研究の遂行（2）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		7週	研究の遂行（3）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		8週	研究の遂行（4）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
	2ndQ	9週	研究の遂行（5）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		10週	研究の遂行（6）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.

		11週	研究の遂行（7）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		12週	研究の遂行（8）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		13週	研究の遂行（9）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		14週	研究の遂行（10）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		15週	研究の遂行（11）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		16週		
後期	3rdQ	1週	研究の遂行（12）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		2週	研究の遂行（13）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		3週	研究の遂行（14）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		4週	研究の遂行（15）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		5週	中間発表会	研究の概要（研究手法，成果など）をプレゼンテーションツールを用いて発表することができ，質疑応答ができる.
		6週	研究の遂行（16）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		7週	研究の遂行（17）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		8週	研究の遂行（18）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
	4thQ	9週	研究の遂行（19）	研究に関連する情報を収集し理解したうえで，研究の進行状況を把握し遂行することができる.
		10週	卒業研究論文の執筆（1）	研究手法，研究成果を論文として執筆することができる.
		11週	卒業研究論文の執筆（2）	研究手法，研究成果を論文として執筆することができる.
		12週	卒業研究発表会の準備と発表（1）	研究の概要（研究手法，成果など）をプレゼンテーションツールを用いて発表することができ，質疑応答ができる.
		13週	卒業研究発表会の準備と発表（2）	研究の概要（研究手法，成果など）をプレゼンテーションツールを用いて発表することができ，質疑応答ができる.
		14週	卒業研究論文の執筆・修正・提出（1）	卒業研究論文を執筆し，指導教員の指導にしたがい修正したうえで，提出できる.
		15週	卒業研究論文の執筆・修正・提出（2）	卒業研究論文を執筆し，指導教員の指導にしたがい修正したうえで，提出できる.
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
配点	0	0	0	0	100	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環境アセスメント

科目基礎情報

科目番号	0057	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：なし参考書：阿部晶　「環境政策」		
担当教員	酒井 美月,宮入 賢一郎		

到達目標

環境アセスメントの制度や手続きの特徴，ミティゲーションやリスクマネジメントの手法を説明でき，ケーススタディやワークショップの手法で問題解決策を提案できることをもって，（D-2）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
環境アセスメントの必要性	開発事業による環境への影響を事前に予測・評価する環境アセスメントについて意義や必要性を理解し具体的な例を挙げながら説明できる.	環境アセスメントについてその必要性を理解し目的を説明できる.	開発事業において環境への影響に配慮する必要性がわからない.
環境アセスメント制度における法制度	環境アセスメント制度について基礎的な知識を有しその手法について、環境影響評価法や県条例などの法制度にのっとり説明が出来る.	環境アセスメント制度について国アセス、県アセスなどの法制度の概要を説明できる.	環境アセスメント制度における法制度の仕組みを知らない.
影響緩和手法	環境に対する影響緩和手法（ミティゲーション）に関する知識を有し、その重要性について説明できる．実務的な環境保全措置の実例、ミティゲーションの実施手順、実施における情報公開について説明できる.	環境に対する影響緩和（ミティゲーション）という考え方が環境アセスメントの重要な概念であると言うことを理解しその特徴を説明できる.	影響緩和手法についての知識をもたず、保全措置および実務における情報公開の重要性を理解できない.

学科の到達目標項目との関係

D D-2
D2

教育方法等

概要	開発事業による環境への影響を事前に予測・評価する環境アセスメントについて，その意義や必要性を理解し，制度や手法等に関する基礎知識を得る．特に環境影響評価法や県条例といった環境影響評価の法制度，環境に対する影響緩和手法（ミティゲーション），実務的な環境保全措置のあり方，情報公開等について学習する.
授業の進め方・方法	・授業方法は講義、資料調査、グループディスカッションを中心とし，適宜，課題（レポート）にとりくむ. ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞1回の定期試験の成績（60%）およびレポート課題（40%）の合計100点満点で（D-2）を評価し，合計の60%以上を獲得したものを本科目の合格者とする. ＜オフィスアワー＞原則として，毎週水曜日，16：00～17：00，環境都市工学科，酒井教員室にて対応する．この時間にとらわれず必要に応じて来室可. ＜先修科目・後修科目＞先修科目は環境生態学. ＜備考＞景観計画，環境生態学に関する知識が必要となる.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	リスクとリスクマネジメント手法	環境アセスメントに関連するリスクの概念とそのマネジメント手法を理解し，説明できる.
		2週	リスクアセスメントとトレードオフ	リスクアセスメントの手法を事例から理解し，トレードオフやリスクアセスメントを説明できる.
		3週	リスクアセスメントとライフサイクルアセスメント	リスクアセスメントやライフサイクルアセスメントの概念を理解し，説明できる.
		4週	環境アセスメントの基礎知識（開発行為と環境要素）	ＫＪ法等により環境要素や環境指標の説明ができる.
		5週	環境アセスメントの基礎知識（開発行為と影響）	具体的な開発行為をとりあげ，事業による影響の概要を予測できる.
		6週	環境アセスメントを構成する環境要素	環境要素を理解し，それぞれを説明できる.
		7週	環境影響評価の法制度（環境影響評価法）	環境影響評価制度について理解し，用語と手続きを説明できる.
		8週	環境影響評価の法制度（県条例）	環境影響評価制度について理解し，用語と手続きを説明できる.
	4thQ	9週	環境アセスメントの目的と情報公開	環境アセスメントの目的について説明できる.
		10週	環境アセスメントの現状（方法書・準備書・評価書）	事例等により環境アセスメントの現状を説明できる.
		11週	調査，予測，評価の手法（大気質,騒音,振動等）	事例等により技術手法を理解し，その特徴をレポートにまとめることができる.
		12週	調査，予測，評価の手法（植物,動物，生態系）	事例等により技術手法を理解し，その特徴をレポートにまとめることができる.
		13週	ミティゲーション手法の基礎知識（用語）	環境保全措置の体系的な概念であるミティゲーションを理解し，レポートにできる.

		14週	ミティゲーション手法の基礎知識（技術）	環境保全措置の体系的な概念であるミティゲーションを理解し，レポートにできる.
		15週	まとめ	学習内容の概観と成果の確認をする
		16週	期末到達度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	40	0	100
配点	60	0	0	40	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環境防災学

科目基礎情報

科目番号	0058	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：自作テキストを使用する。		
担当教員	古本 吉倫		

到達目標

活断層と地震の関係を理解し，国内外の被害地震，被害の特徴を通して，構造物ならびに地盤の地震時挙動をふまえ，地震防災対策の現状を説明できること．また，サイスミックマイクロゾーニングの手法を理解して，大震災における構造物の被害，地盤の被害，建物の被害を通して減災の考えかたを説明できる．これらにより，学習・教育目標の（D-1）および（D-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
構造物ならびに地盤の挙動	活断層と地震の関係を理解し，構造物ならびに地盤の地震時挙動を説明できる。	大地震における，構造物ならびに地盤の挙動を説明できる。	大地震における，構造物ならびに地盤の時挙動を理解していない。
地震防災対策の現状	国内外の地震被害の特徴を通して，防災に関する知識を持ち、地震防災対策の現状を説明できる。	国内外の地震被害の特徴を通して，地震防災対策の現状を説明できる．	地震防災対策の現状を理解していない。
減災の考え方	サイスミックマイクロゾーニングの手法を理解し，震災における構造物や地盤の被害を通して減災の考えかたを説明できる．	サイスミックマイクロゾーニングの手法を理解して，減災の考えかたを説明できる．	減災の考え方を理解していない。

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1 D2

教育方法等

概要	自然災害対策について学ぶ．特に地震災害対策について，過去の地震被害，国・自治体の地震対策例ならびに阪神大震災の教訓を通して防災対策を検討する．
授業の進め方・方法	（記入例）・授業方法は講義を中心とし，演習問題や課題をだす． ・適宜，レポート課題を課すので，期限に遅れず提出すること． ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える．
注意点	＜成績評価＞一回の到達度試験を100点満点で評価し，60点以上をもって（D-1）および（D-2）の達成とする． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日16:00 ～ 17:00，環境都市工学科棟3F 第1教員室．この時間にとらわれず必要に応じて来室可． ＜先修科目・後修科目＞先修科目は土質力学II．後修科目はなし． ＜備考＞自分の住む自治体の防災体制および日常の災害関連報道に関心を持つことが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	活断層と地震（その１）	・活断層と地震の関係を説明できる．
		2週	活断層と地震（その２）	・活断層と地震の関係を説明できる．
		3週	国内外の被害地震、被害の特徴（その１）	・国内外の主な被害地震とその被害の特徴を整理し、説明できる．
		4週	国内外の被害地震、被害の特徴（その２）	・国内外の主な被害地震とその被害の特徴を整理し、説明できる．
		5週	構造物ならびに地盤の地震時挙動（その１）	・構造物や地盤の地震応答特性についてその特徴を説明できる．
		6週	構造物ならびに地盤の地震時挙動（その２）	・構造物や地盤の地震応答特性についてその特徴を説明できる．
		7週	大都市および長野市・長野県の地震防災対策の現状（その１）	・国・自治体の行うべき地震防災対策について説明できる．
		8週	大都市および長野市・長野県の地震防災対策の現状（その２）	・国・自治体の行うべき地震防災対策について説明できる．
	4thQ	9週	サイスミックマイクロゾーニング（その１）	・サイスミックマイクロゾーニングに必要な事項を知り、各項目について必要な評価手法を説明できる．
		10週	サイスミックマイクロゾーニング（その２）	・サイスミックマイクロゾーニングに必要な事項を知り、各項目について必要な評価手法を説明できる．
		11週	地震被害における地盤の影響（その１）	・地震被害における地盤の影響について説明できる．
		12週	地震被害における地盤の影響（その２）	・地震被害における地盤の影響について説明できる．
		13週	大震災における構造物の被害、建物の被害	・阪神淡路大震災および東日本大震災における被害について説明できる．
		14週	大震災におけるライフラインの被害、減災の考え方(1)	・阪神淡路大震災および東日本大震災における被害について説明できる．
		15週	大震災におけるライフラインの被害、減災の考え方(2)	・阪神淡路大震災および東日本大震災における被害について説明できる．
		16週	到達度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
配点	100	0	0	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環境水工学

科目基礎情報

科目番号	0059	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：高橋裕「新版　河川工学」　東京大学出版会参考書：玉井信行他「河川生態環境工学」東京大学出版会		
担当教員	酒井 美月		

到達目標

地球上の水を持続可能な資源として捉え，降雨から流出にいたるまでの時間的空間的諸特性を理解し，更には流域環境との関連まで把握する事ができ，治水・利水・環境のための対策に必要な設計上の数値を算出することができる．これらにより，学習・教育目標(D-1)，(D-2)の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
日本の気象、降雨と災害に関する知識	日本の気象の特長について理解し、降雨災害と地形との関係、河川災害との関連について実例を挙げて説明できる。	日本の気象の特徴、降雨災害、河川災害と地形との関係について選択肢から正しい情報を選択できる。	日本の気象の特徴、降雨災害河川災害に関する知識を持たず説明できない。
河川の役割、流出に関する知識	河川における輸送と流路について理解し、降雨から流出にいたる過程について時間的空間的な特性を理解し、基本的な数値解析手法を知り、エクセルなどを用いて実際に解析を行うことが出来る。	降雨から流出にいたる過程について理解し、数値解析手法についてその種類などを例示できる。	流出解析に関する知識を持たず降雨から流出にいたる過程を説明できない。水文データに関する基礎用語を知らず、解説できない。
河川計画と河川調査	河川調査の種類や目的・その計画について説明できる。各種河川計画にはどのようなものがあるか例示し、どのような流れで計画がなされるかについて説明が出来る。	河川調査の種類や目的・計画についてどのようなものがあるかを説明できる。	河川調査、河川計画に関する基礎用語の説明が出来ない。
流域生態系に関する知識	流域生態系を含めた流域保全に関する知識を有し、治水・利水に関する設計上の知識を有し必要な諸量の算出が出来る。	流域生態系を含めた流域保全計画が重要であることを理解し説明できる。	流域生態系の意味を説明出来ない。

学科の到達目標項目との関係

D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	降雨から流出までの河川工学上の諸理論の理解を軸に，流域の環境生態学的側面についても学び，環境に配慮した河川管理の手法，システム，工作物に関する知識を修得する．課題ではソフトウエアを用いた各種解析を行い、河川分野における各種計画での、シミュレーション作業を確認する。
授業の進め方・方法	・授業方法は講義とともに実務演習を課題として行う． ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える．
注意点	＜成績評価＞年1回の学習到達度試験により60点、課題で40点の配点で（D-1），（D-2）を評価する．評価結果60点以上を合格とする． ＜オフィスアワー＞原則として，毎週水曜日，16：00～17：00，環境都市工学科，酒井教員室にて対応する．この時間にとらわれず必要に応じて来室可． ＜先修科目・後修科目＞先修科目は水理学I、水理学II ＜備考＞水理学や統計学の基礎の上に河川工学上の諸問題を理解し，環境生態学や衛生工学等の分野の知識も総合化して，流域管理の考え方を修得できるよう心がける．解析課題には各自のＰＣが必要となるので持参すること。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	環境水工学とは	人間社会の発展の歴史と水との関わり，日本の水環境の歴史と現状について説明できる．
		2週	日本の気象・降雨災害と地形	日本の気象の特徴について説明できる．降雨災害と地形との関係を説明できる．
		3週	流域の地形・流域の地形	地形・河系・河川災害の関連について説明できる．
		4週	河系・土砂輸送と流路	土砂輸送と流路形態について説明できる．
		5週	河川掃流力	河川において河床に働く層流力に関する説明ができる．
		6週	河川史	河川とその流域のつながりや関わりについて歴史的な視点から説明ができる．
		7週	雨量解析	降雨記録から連続雨量強度を計算できる．
		8週	確率水文量の推定	降雨観測値から確率水文量を推定できる．
	4thQ	9週	洪水流出解析1	合理式と単位図法について理解し説明、利用できる．
		10週	洪水流出解析2	貯留関数法とタンクモデルについて理解し，説明できる．
		11週	河川調査・河川工作物・河川砂防	河川調査の種類や目的・計画について説明できる．各種河川計画に関する説明ができる．

		12週	ハザードマップ	ハザードマップの作成とその利用についての説明ができる.
		13週	ダム概説	ダムの構造，用途など実例紹介から理解する.
		14週	水辺の生態学と流域環境	生物多様性の危機的状況を説明できる．生態系の保全手法を説明できる．環境共生型社会のあり方について議論し，自分の意見を述べることが出来る.
		15週	学修内容の確認	学習内容について概観・確認をする
		16週	達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	100
配点	60	0	0	0	40	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	CAD

科目基礎情報

科目番号	0060	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：辻川ひとみ他「JW-CAD建築製図」 参考書：大庭孝雄他「建築設計製図」実教出版，貴志雅樹監修「建築・設計・製図　住吉の長屋・屋久島の家・東大阪の家に学ぶ」学芸出版		
担当教員	西川 嘉雄		

到達目標

基本操作の解説によりCADの操作を理解し、木造平面図のトレースによりCADによる作図方法を習得する事．さらに「建築設計製図1」で設計した2階建て木造住宅の平面図・立面図をCADで作図ができること．以上を総合評価し学習・教育目標（D-1），（D-2）の達成とする．さらに，木造住宅の設計主旨・建物の特徴をプレゼンテーションできることで学習・教育目標 （C-2）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
CADの操作方法に関する事項	CADの操作方法を理解し，与えられた条件の異なった課題の作図ができる．	CADの操作方法を理解し，与えられた条件の課題の作図ができる．	CADの操作方法を理解しておらず，課題の作図ができない．
レイヤー概念に関する事項	レイヤーの概念を理解し、5種類以上のレイヤーを使って木造住宅課題の作図ができる．	レイヤーの概念を理解し、木造住宅課題の作図ができる．	レイヤーを使わず，木造住宅課題の作図ができない．
プレゼンテーションに関する事項	作成したCAD課題をつかって，プレゼンテーション資料を作り，設計趣旨と建物の特徴を伝えられる．	作成したCAD課題をつかって，プレゼンテーション資料が作れる．	作成したCAD課題をつかって，プレゼンテーション資料が作れない．
課題を計画的に実施する項目	提出期限まで計画的に作図を進め，十分検討された成果品を提出できる．	提出期限まで作図を進め，成果品を提出できる．	提出期限まで作図が完了せず，成果品を提出できない．

学科の到達目標項目との関係

C C-2 D D-1 D D-2
D1　D2

教育方法等

概要	前半は「図形の作成・複写・移動など」によりCADの基本操作を学ぶ．基本課題を作成し操作方法を身に着ける．課題1「RC建築図面のトレース」によりレイヤー・テンプレートなどの応用操作を学ぶ．さらに，課題2「木造図面の作図」を通して実務的なCAD操作を学ぶ．更に，課題3「課題2のプレゼン発表」により、CADデータを用いたプレゼンレテーションの方法を習得する． 本科目は，企業で建築物の計画および検討を担当していた教員が，その経験を生かしプランの計画・作図について実習形式で授業を行うものである．
授業の進め方・方法	・授業はスクリーンでCAD操作方法を解説しながら各自パソコンを使って同じ操作を行う．課題を課するので、次回講義前までに印刷して提出する事． ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える．
注意点	＜成績評価＞基本課題・課題1「RC建築図面のトレース」・課題2「木造図面の作図」で （D-1），（D-2）を評価する．また課題3「課題2のプレゼン発表」で （C-2）を評価する．各課題の重みは基本課題15%，課題1を15%， 課題2を50%，課題3を20%とする．合計点の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする． ＜オフィスアワー＞原則として，毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，遠藤教員室（連絡担当）にて担当教員（西川嘉雄）への連絡方法を知らせ対応する．また，非常勤講師への質問は講義時間中に行う事． ＜先修科目・後修科目＞先修科目は建築計画，設計製図Ⅰ，建築設計製図Ⅰ ＜備考＞木造建築の設計に関する知識があること．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	CAD操作の概要	CADの概要，建築におけるプレゼンについて理解できる．基本課題：モデル図面の作成
		2週	基本操作１：直線・中心線・二線・複線・矩形・円など	直線や平行線，円などの2次元図形の描画ができる．基本課題：家具の製図
		3週	基本操作２：伸縮・コーナー・面取・移動・複写	建築・土木の製図で良く使う機能の習得できる．基本課題：図形と線
		4週	基本操作３：レイヤー・包絡の操作	レイヤーの設定方法ができる．基本課題：一点透視図の作成
		5週	基本操作4：分割・ハッチ・パラメトリック	テンプレートの作成が行える．基本課題：階段の作図
		6週	RC建築図面のトレース１：RC集合住宅の平面図の作図	集合住宅の平面図が書ける．
		7週	RC建築図面のトレース２：RC集合住宅の一階平面図	集合住宅の平面図を利用して一階平面図が描ける． 課題１：RC建築図面のトレース完成
		8週	木造図面の作図１：一階平面図の作図	木造の一階平面図の作図ができる．
	2ndQ	9週	木造図面の作図２：一階平面図の作図	木造の二階平面図の作図ができる．
		10週	木造図面の作図３：立面図１の作図	木造の立面図１の作図（南または北）ができる．
		11週	木造図面の作図４：立面図２の作図	木造の立面図１の作図（東または西）ができる．
		12週	木造図面の作図５：断面図・配置図の作図	木造の断面図・配置図の作図ができる． 課題２：木造図面の作図完成

		13週	プレゼンテーションの作成：作成方法	プレゼンテーションの事例紹介と作成方法を理解しプレゼン資料の作成ができる.
		14週	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーション資料作成ができる.
		15週	プレゼン発表	プレゼン発表を行い、適切な質疑応答ができる. 課題3：プレゼン資料完成
		16週		

評価割合

	基本課題	課題１：RCトレース	課題2：木造トレース	課題３：プレゼン	その他	合計
総合評価割合	15	15	50	20	0	100
配点	15	15	50	20	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環境生態学

科目基礎情報

科目番号	0061	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	（教科書）宇野宏司・渡部守義，環境・都市システム系教科書シリーズ 環境生態工学，コロナ社		
担当教員	浅野 憲哉		

到達目標

生態系の基本，ビオトープの基本を理解し，生物多様性やミティゲーションについて説明できること.
これらの内容を満足することで，学習・教育目標（D-3）の達成とする.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	生態系における環境条件と生物群集との作用と反作用，種内関係と種間関係等の相互作用，それに伴う自然選択と生物分布を，十分に理解しており説明ができる.	生態系における環境条件と生物群集との作用と反作用，種内関係と種間関係等の相互作用，それに伴う自然選択と生物分布について，基本的な項目理解している.	生態系における環境条件と生物群集との作用と反作用，種内関係と種間関係等の相互作用，それに伴う自然選択と生物分布を理解していない.
評価項目2	生態系の種類による物質循環の特徴を，十分に理解しており説明できる.	生態系の種類による物質循環の特徴について，基本的な内容を理解している.	生態系の種類による物質循環の特徴を，理解していない.
評価項目3	自然環境を守るための法制度やビオトープのあり方について，十分理解しており説明できる.	自然環境を守るための法制度やビオトープのあり方について，基本的な菜内容を理解している.	自然環境を守るための法制度やビオトープのあり方について，理解していない.

学科の到達目標項目との関係

D D-3

教育方法等

概要	生態学を基礎とし，自然環境におけるビオトープの必要性と理念を学び，その上で自然と共生したまちづくり，川づくり，さらにこれらに係るビオトープ型志向の土木工学や都市・農村づくりなどの計画・設計に応用できる基礎知識を得る.
授業の進め方・方法	・授業方法は講義を中心とし，演習問題や課題をだす. ・適宜，レポート課題を課すので，期限に遅れず提出すること. ・この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える.
注意点	＜成績評価＞ ・2回の到達度試験およびレポートで評価する．ただし，各定期試験の重みは同じとする. 合計100点満点でD-3を評価し，合計の６割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする. ＜オフィスアワー＞ ・放課後16:00～17:00，浅野教員室．この時間にとらわれずに必要に応じて来室してください．また，会議などで不在の場合があります. ＜先修科目・後修科目＞ ・先修科目は，生物，地球環境学 ＜備考＞ ・動物・植物の分布，生態学，ビオトープと結びついた建設工法などの知識が大切である.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	生態系の基本的構造	生態系の基本的構造が説明できる.
		2週	生態系の種類と分布	生態系を区分でき，陸域生態系と水域生態系の特徴を説明できる.
		3週	生態系機能と生態系サービス	生態系サービスを区別でき，説明できる.
		4週	生態系の個体と個体群（１）	生物の分類ができ，生物種による成長曲線の特徴を説明できる.
		5週	生態系の個体と個体群（２）	生物の種内競争と移動・分散等による生存戦略を説明できる.
		6週	生物群集と種間関係	生物の相互関係が区別でき，生態学的ニッチの意味を説明できる.
		7週	生態系に対する理解度確認	各種生態系の構造や相互作用について理解していること.
		8週	植生の生態遷移と里地里山（１）	一次遷移と二次遷移を理解し，森林生態系の特徴を説明できる.
	4thQ	9週	植生の生態遷移と里地里山（２）	一次遷移と二次遷移を理解し，森林生態系を保全する意義を説明できる.
		10週	栄養段階と生態系ピラミッド（１）	生態系におけるエネルギーフローを理解して説明できる.
		11週	栄養段階と生態系ピラミッド（２）	生態系における物質循環を理解しており，説明できる.
		12週	生物多様性	希少種や指標種などの指標生物の種類を区別でき，説明できる.

		13週	水域の富栄養化	水域生態系を例に，環境問題の現状と課題を説明できる.
		14週	環境関連法	自然環境に関する法制度を理解し，代表的な環境関連法について説明できる.
		15週	自然環境に対する理解度確認	自然環境における物質循環や環境問題について理解していること.
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	100
配点	80	0	0	20	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	フーリエ解析

科目基礎情報

科目番号	0062	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：高遠節夫 他「新応用数学 改訂版」大日本図書　/　問題集：高遠節夫 他「新応用数学問題集 改訂版」大日本図書		
担当教員	西信 洋和		

到達目標

フーリエ解析の基本的事項と標準的な計算方法についての概念を理解できることを目標とする．授業内容を60%以上理解し計算できることで，学習・教育目標の(C-1)の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
フーリエ解析に関する事項の理解	各単元において数学的な性質を理解し，応用問題を解くことができる．	各単元における基本的な計算方法を理解し，標準問題を解くことができる．	各単元における基本問題を解くことができない．

学科の到達目標項目との関係

C C-1
C1

教育方法等

概要	工学において必要になる数学の知識の習得と計算技能の習熟を図り，数学的論理を通して思考力・表現力・創造力を養い，現象を数学的に捉え，記述し，処理することにより問題を解決する能力を養う．さらに，数学の教養を高める．
授業の進め方・方法	授業方法は講義を中心とし，演習問題や課題を組み合わせて進める． この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える．
注意点	＜成績評価＞試験(80%)，平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し，合計の6割以上を獲得した者を合格とする．ただし平常点は授業中に行う課題演習等で評価する． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日14:30～15:00　数学科の各教員が対応します． ＜先修科目＞微分積分IIA・B ＜備考＞上記先修科目と他に微分積分Iの内容，複素数について理解し，微分と積分，基本的な複素数の計算ができることを前提とする．また，授業に対しては必ず予習，復習をし，教科書の問いや練習問題等を自分で解くことが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ラプラス変換の定義と例	ラプラス変換の定義を理解し，簡単な場合に定義に従って計算できる．
		2週	ラプラス変換の基本的性質	ラプラス変換の基本的な性質を理解し，それを利用して多くの関数のラプラス変換を求めることができる．
		3週	ラプラス変換表	ラプラス変換表を使って多くの関数のラプラス変換を求めることができる．
		4週	逆ラプラス変換	逆ラプラス変換の意味を理解し，逆ラプラス変換を求めることができる．
		5週	ラプラス変換の常微分方程式への応用	ラプラス変換，逆ラプラス変換を用いて常微分方程式を解くことができる．
		6週	たたみこみ	たたみこみの定義を理解し，簡単な積分方程式を解くことができる．
		7週	線形システムの伝達関数とデルタ関数	線形システムの伝達関数とデルタ関数の意味を理解することができる．
		8週	周期2πのフーリエ級数	周期2πの関数のフーリエ級数の定義を理解し，いくつかの例についてそれを求めることができる．
	2ndQ	9週	一般の周期関数のフーリエ級数	一般の周期関数のフーリエ級数の定義を理解し，いくつかの例についてそれを求めることができる．一般の周期関数のフーリエ級数の収束の意味を理解する．
		10週	複素フーリエ級数	複素フーリエ級数の定義を理解し，それを求めることができる．
		11週	フーリエ変換	フーリエ変換の定義を理解する．また，典型的な関数のフーリエ変換を求めることができる．
		12週	積分定理	フーリエの積分定理と反転公式を理解する．
		13週	フーリエ変換の性質と公式	フーリエ変換の性質，たたみこみに関する公式を理解する．また，典型的な関数のフーリエ変換を求めることができる．
		14週	スペクトル	フーリエ変換の応用として，線スペクトル・連続スペクトルの概念を把握する．
		15週	まとめと総復習	半年間のまとめを行う
		16週	前期末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100

配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	複素関数論

科目基礎情報

科目番号	0063	科目区分	専門 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：高遠節夫 他 「新応用数学 改訂版」 大日本図書 ／ 問題集：高遠節夫 他 「新応用数学問題集 改訂版」 大日本図書		
担当教員	小原 大樹,平戸 良弘		

到達目標

複素関数についての基本事項を理解し，留数を用いた積分ができることを目標とする．授業内容を60%以上理解し計算できることで，学習・教育目標の（C-1）の達成とする．

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
複素関数論に関する事項の理解	各単元において数学的な性質を理解し，応用問題を解くことができる．	各単元における基本的な計算方法を理解し，標準問題を解くことができる．	各単元における基本問題を解くことができない．

学科の到達目標項目との関係

C C-1
C1

教育方法等

概要	複素関数についての定義や性質を理解し，考える道筋を明らかにしながら，留数を用いた積分ができることを目標とする．数学の知識を確実にするとともに計算力・思考力を養い，数学を活用する能力を伸ばす．
授業の進め方・方法	講義，問題演習，プリント教材等を組み合わせて進める． この科目は学修単位科目であり，授業時間30時間に加えて，自学自習時間60時間が必要である．事前・事後学習として課題等を与える．
注意点	＜成績評価＞試験(80%)，平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し，合計の6割以上を獲得した者を合格とする．ただし平常点は授業中に行う課題演習等で評価する． ＜オフィスアワー＞毎週水曜日14:30～15:00　数学科の各教員が対応します． ＜先修科目＞微分積分IIA・B ＜備考＞上記先修科目と他に微分積分Ｉの内容，複素数について理解し，１変数・２変数関数の微分と積分の計算ができていることを前提とする．また，授業に対しては必ず復習をし，教科書の問いや練習問題等を自分で解くことが大切である．

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	複素関数	指数関数，三角関数などの簡単な複素関数の定義が理解できる．
		2週	正則関数	正則関数について理解し，簡単な関数の導関数を求めることができる．
		3週	コーシー・リーマンの関係式	コーシー・リーマンの関係式について理解し，これを用いて基本的な関数の導関数を求めることができる．また，調和関数についても理解できる．
		4週	逆関数	逆関数について理解し，基本的な関数について逆関数を求めることができる．
		5週	複素積分（１）	複素積分について理解し，簡単な関数について曲線Ｃに沿う積分が計算できる．
		6週	複素積分（２）	積分の絶対値の評価が理解でき，典型的な問題に応用することができる．
		7週	複素積分（３）	複素関数の不定積分について理解でき，積分の計算に応用できる．
		8週	コーシーの積分定理（１）	コーシーの積分定理について理解し，それを用いて標準的な積分ができる．
	4thQ	9週	コーシーの積分定理（２）	コーシーの積分定理を用いて実数を積分変数とするある種の定積分の値を求めることができる．
		10週	コーシーの積分表示	コーシーの積分表示について理解し，それを用いて標準的な積分ができる．
		11週	数列と級数	数列や級数，べき級数について理解し，それらの収束，発散について調べることができる．
		12週	関数の展開	べき級数について理解し，典型的な関数についてテイラ ー展開やローラン展開ができる．
		13週	孤立特異点と留数	孤立特異点と留数について理解し，留数の計算ができる．
		14週	留数定理	留数定理について理解し，留数定理を用いて実数を積分変数とするある種の定積分の値を求めることができる．
		15週	まとめと総復習	半年間のまとめを行う
		16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計

総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100